

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 60 号 (2020年)

目 次

同窓会長挨拶……………山口 正広 (昭56) ……………	1
薬学部長挨拶……………尾野村 治 ……………	2
令和2年度長薬同窓会定期総会 (書面開催) ……………	3
令和3年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	3
支部だより……………	4
関東支部, 近畿支部, 山陰支部, 福岡支部浦陵会, 大分支部, 熊本支部, 佐賀支部若楠会, 長崎県北支部, 長崎県央支部, 長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	12
古川 淳 (昭25), 安永ハルミ (昭34), 白松一良 (昭36), 寺尾桂子 (昭37), 藤井幹久 (院昭44) 中嶋幹郎 (昭57), 金子富美 (昭59), 鈴木ひとみ (昭60), 山口綾子 (昭60), 菅 忠明 (平27) 八田大典 (平27), 林田颯志 (平28), 本多湧大 (令2), 馬淵恵理子 (学1), 坂井俊文 (学4) 稲嶺達夫 (平18), 岸川直哉 (平10), 山口正広 (昭56)	
研究室だより……………	24
細胞制御学, 創薬薬理学, 薬化学, 薬品製造化学, 医薬品合成化学, ゲノム創薬学, 天然物化学 機能性分子化学, 衛生化学, 薬品分析化学, 薬物治療学, 医薬品情報学, 薬剤学, 実践薬学 薬用植物学, 臨床研究薬学, 治療薬剤学, 薬品構造解析学	
庶務報告……………	42
物故者氏名……………	42
寄附のご案内……………	43
学内記事……………	45
長薬同窓会役員名簿……………	47
長薬同窓会支部一覧……………	48
会計報告 (令和元年度決算, 監査報告, 令和2年度予算) ……………	49
編集後記	



ご 挨拶

会 長 山 口 正 広 (昭56)

今年度から会長を仰せつかっています, 昭和56年卒の山口正広です。

長薬同窓会誌第60号の発行にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には, 日頃から同窓会事業にご理解とご協力をいただき心からお礼申し上げます。また, 同窓会と会員の皆様をつなぐ同窓会誌を今年も無事に発行することができました。発行にあたり, ご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。

今年, 新型コロナウイルスが世界的に蔓延し, 日本では4月に緊急事態宣言が発出されるなど, 社会経済活動や市民生活にも影響が出ています。長薬同窓会の事業についても影響は出ておりますが, 定期総会を书面開催に変更したり, 例年であれば学生や長崎市内の会員にも参加いただいている「グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動」については参加者を本部役員に絞るなど, 規模や方法を変えながら計画している事業に取り組んでいるところです。感染拡大の収束が見通せない状況にあり, 今後につきましても, 当面はウィズコロナを念頭におきながら事業を進めてまいります。

さて, 同窓会に関係する動き等について, 二つほど報告させていただきます。

一つ目は, 2017年(平成29年)10月に同窓会から長崎市長へ「調査, 保存, 活用」についての要望書を提出していた「分析窮理所遺構」の件です。分析窮理所は長崎大学薬学部起源とも言われており, 同年長崎市立仁田佐古小学校の新校舎建設予定地において, 小島養生所(※1861年に開設された我が国最初の近代西洋式病院)に併設された「分析窮理所」の遺構が見つかったことから要望書を提出していたものです。長崎市においては, 本年4月, 同小学校体育館横に「長崎(小島)養生所跡資料館」を開館し, 分析窮理所遺構についても紹介されるようになりました。また, 本年度は分析窮理所遺構の一部を復元する事業として, 小学校建設時に取り除いた分析窮理所遺構の石垣などを同校校舎横に移設, 整備する工事が行われており, 養生

所跡資料館と一体となった見学ができるようになります。皆様も是非見学してみてください。

二つ目は, 長薬同窓会の発足時期が判明したことです。「長崎大学薬学部百年史」には, 「長薬同窓会に関する記録も原爆以前の資料は殆ど残っていない。(中略)従って, 長薬同窓会の発足に関しては全く不明であるが, 恐らく昭和の初期であろうと推察される。」と記載されていましたが, 1937年(昭和12年)12月発行の会員名簿が事務局に残っており, その中に同窓会の会則が掲載されていました。その会則の附則第二条には「本會則ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ實施ス」と記載されており, 長薬同窓会は1937年4月1日に発足したことが推察されました。同窓会事務局には貴重な資料が残されており, 今後とも整理に努めていきたいと考えています。

長崎大学薬学部は, 1890年に創立された第五高等中学校医学部薬学科にはじまり, 今年で創立130年目を迎えました。これまでに多くの優秀な卒業生を輩出し, 社会に貢献してきました。長薬同窓会は, 長崎大学薬学部を卒業した同窓生同士をつなぎ合わせる要的な存在であり, 多くの卒業生の方々に親しまれ身近に感じていただける同窓会にしていきたいと思います。そのため, SNSやホームページ, 会誌等を通じた情報発信の充実にも引き続き取り組んでいきたいと考えておりますので, 会員の皆様には同窓会へのいろいろな情報の提供をよろしくお願いいたします。

最後に会員の受賞等についてご紹介します。昨年(2019年)は, 佐々木均前会長(昭53)の研究グループが開発された「ドラッグデリバリーシステム」についての研究プロジェクトが科学技術振興機構の「大学発新産業創出プログラム」に採択され, 山中國暉元会長(昭43)が医療功労賞(読売新聞社主催)を受賞されています。また, 本年は, 長崎県北支部の相川康博支部長(昭48)が令和2年度の薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞されました。誠にめでたうございます。各先生方の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 尾野村 治

長薬同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。常日頃より皆様方には、長崎大学薬学部の教育研究に格別のご支援とご高配を賜り誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、令和2年は56年ぶりに東京オリンピックが開催され、訪日外国人観光客も一層増加する、華やかで賑やかな一年となるはずでした。しかし、新型コロナウイルスの流行に伴い、その感染拡大防止の観点から、国内外の様々なイベントの実施が見直され、卒業式や入学式など多くの大学行事も中止や規模縮小となりました。薬学部と同窓会が3月に予定していた下村脩博士の胸像除幕式も開催できませんでしたが、胸像は薬学部本館エントランスに設置されております。慈しみに満ちた未来志向の眼差しは、そこに博士がいるかのような見事な出来栄です。私もよく胸像の前に立たせてもらいますが、見つめていると疲れも吹飛び前向きな気持ちになれます。皆様も、近くにお越しの折には下村脩名誉博士顕彰記念館と共に見学していただければ幸いです。

オンライン講義が中心となった前期講義について、学生は「オンライン講義への不満」と「対面講義への不安」を抱く毎日でしたが、徐々に制限を緩和し、感染予防対策を十分取った上で、後期からは通常に近い規模の対面講義も可能となってきました。今後はそれぞれの特長を活かして学習効果を一層高めるハイブリッド講義を実施することにより、学生の不満と不安が軽減することを期待しています。

ここで、この場をお借りして、人事異動の近況、国家試験の合格状況や就職状況について報告させていただきます。現在、教員の採用選考に当たっては、薬学部教授会単独では進められず、全学や生命医科学域の選考委員会の了承も得て、選考方針を決め、研究の実績と将来性・教育能力等を評価し、最終的に全学選考委員会が決定するため、従来に

比べ採用に至るまで長期間を要しています。そのような過程を終え、前任者の退職以来1年半空席でしたが、新任教授として、10月に創薬薬理学研究室に広島大学から金子雅幸先生を、11月には衛生化学研究室に金沢大学から鳥羽陽先生をお迎えすることができました。また、3月に薬化学研究室の大庭誠准教授が京都府立医科大学教授に、4月には医薬品情報学研究室の萩森政頼准教授(平13)が武庫川女子大学教授に栄転されました。6月に後任准教授として、薬化学研究室では上田篤志先生が昇任され、医薬品情報学研究室には理化学研究所から向井英史先生が着任されました。3月に福田瑞穂先生(平27)が退職された薬品分析化学研究室の助教には、10月にMahmoud Hamed M H Elmaghrabey博士(博平25入)が採用されました。一方、育薬研究教育センター助教の西内弥生先生(平8)は長崎大学病院臨床研究センターへ4月に移動されました。

続きまして、第105回の国家試験では、新卒者40名が受験し36名が合格し、合格率は90%でした。高い合格率を維持するため、今後もきめ細かな指導を行っていきます。

就職・進学状況については、薬学科の卒業生42名のうち、28名が病院・調剤薬局に、5名が公務員、5名が製薬関連企業に就職し、また、2名が大学院に進学しました。一方、薬科学科では卒業生33名中、本学博士前期課程進学が29名、他大学院進学が1名、公務員が1名、就職が1名となっております。博士前期課程修了者28名の進路は、博士後期課程進学者が7名、製薬・化学等の製造業18名、CRO等が3名となっております。今後も学生の希望に沿った進路実現に向けて、指導を一層充実させていただきますので、同窓会の皆様には引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、長薬同窓会の今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。

令和2年度長薬同窓会定期総会 (書面開催)

今年度の定期総会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催とさせていただきます。令和2年6月19日を締切として書面議決の返信ハガキをご提出いただきました。誠にありがとうございました。結果につきましては下記のとおりです。

記

◎令和2年度 長薬同窓会定期総会書面開催結果

議案

第1号議案	令和元年度事業報告並びに決算報告・監査報告の件	賛成825, 反対 0
第2号議案	令和元年度庶務報告の件	賛成824, 反対 1
第3号議案	長薬同窓会次期役員の件	賛成823, 反対 2
第4号議案	令和2年度事業計画案並びに予算案の件	賛成824, 反対 1
第5号議案	次年度定期総会の開催場所の件	賛成825, 反対 0

結果

すべての議案について、過半数の賛成をもって可決・承認されました。

令和3年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 2021年7月10日(土) 16時から 講演会, 総会, 懇親会(予定)

場所 レンブラントホテル大分(大分駅から徒歩8分)

〒870-0816 大分県大分市田室町9-20 TEL 097-545-1040

※新型コロナウイルス感染拡大により開催中止となる場合があります。

5月頃お送りする定期総会案内でご確認ください。

支部だより

●● 関東支部 ●●

支部長 原 正朝（昭60）

今年の関東支部総会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。幹事会の活動も全て休止し、特に報告するトピックスもありませんでした。来年は、新型コロナが終息すれば良いのですが、WITHコロナの中でも関東支部の活動を再開して報告したいものです。

さて私事になりますが、昨年（2019年）の6月より総合メディカル株式会社が買収した青森県弘前市の株式会社みんゆう薬品の代表を務め弘前市に単身赴任しています。昨年は東京と弘前を行き来しながら、関東支部の活動も行っていました。8月には弘前ねぶた、青森ねぶた、五所川原の立佞武多も見ることができ、初めての冬を経験しました。昨シーズンは記録的な暖冬で、史上最低に近い積雪量だったため豪雪地帯の苦労も実感することなく春を迎えましたが、新型コロナのため春の最大イベントである第100回弘前さくらまつりも中止となり、弘前城がある弘前公園は封鎖されてしまいました。8月のねぶた祭りも中止となり自粛ムードの中での生活です。緊急事態宣

言が発令された4月以降は会社や日本保険薬局協会の会議は全てWEB会議となり、東京へ行くこともなく、自宅の川崎市に帰ることもできず、弘前にとどまっています。東京には2004年に前任地の広島から赴任して、毎日片道一時間、満員電車での通勤を続けていましたが、弘前に来てからは通勤時間は車で10分、毎朝始業前に会社近くの運動公園で岩木山を見ながら30分以上散歩し、休日はゴルフ、テニスと弘前の暮らしを楽しんでいます。

薬局を取り巻く環境は、新型コロナの影響もあり厳しい状況ですが来年は明るい一年にしたいものです。社員からは、「今シーズンは大雪かもしれませんよ」と脅されていますので、会報が届く頃には大雪と格闘しているかもしれません。



●● 近畿支部 ●●

支部長 末澤 克己（昭47）

昨年の会報誌を読み直しますと、2019年は近畿支部創立百年で、佐々木均長薬同窓会長はじめ百名近くの会員のご参加、大阪万博公園に近い会場で長薬同窓会定期総会が開催され、岡田 浩先生（平17）、高田充隆先生（昭52）のお二方による印象的な特別講演を企画・実現することができました。懇親会も伊藤潔近畿支部幹事長の司会進行のもと楽しく盛會に無事終了したとあります。あらためて皆さまに感謝申し上げます。

今年2020年に入り、ご承知の通り、凡そ百年前のスペイン風邪以来のパンデミックともいわれる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、10月末現在、全世界の確定感染者数は44百万人超、死亡者は百万人超と増加一途との報告です。本邦でも（第一波では瀬戸際で感染爆発迄には至らないものの、ミラクル日本？）引き続き感染防止と経済等活動の両立（WithコロナとGoToキャンペーン等）が求められ、コロナの時代として様々な対応、生き方が問われてきているのかと思います。今

現在も医療の現場に従事、携わっておられる方々も多いと存じます。どうぞ皆さまお気をつけて益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

さて、本題の近畿支部の活動についてであります。昨年11月24日に、近畿支部役員一同（伊藤幹事長はじめ幹事ら6名：小池、渡辺（新任）、森藤、山澤、迎、末澤）が大阪梅田界限で会しました。2020年の同窓会支部活動などを打ち合わせ、とくに新しく幹事になられた*渡辺修二氏（昭57）を迎えての最初の会でもあり、あらためて年明けて再会を期してお開きになりました（*渡辺さんからはご挨拶と大阪・関西におけるコロナ現場対応について寄稿をいただいています）。

ところが、上述コロナ禍のなかで同窓会支部活動も中断、流行りのオンライン会議（Zoomなど）をはじめ同窓会支部活動のあり方、新常态（ニューノーマル）についても関係幹事で検討したものの具体的な活動は保留の段階にあります。これまで毎年秋に開催予定（昨年2019年は定期総会開催担当であったため、例外的に6月開催）の近畿支部総会につきましても、現況に鑑み開催中止となりました。

大変に残念であり、関係者皆さまに申し訳なく思いますが、この誌上も借りてご確認、お知らせ申し上げます。また、近畿支部では先般からホームページを設定しておりま

す。こちらにも活動状況、2020年近畿支部総会開催の中止のお知らせを載せております。なお、上記 岡田先生がリーダーの「京都大学SPH薬局グループ」による、薬局で働く皆さまを対象にした「COVID-19対策のHP」について同ホームページでリンクさせて頂いています。併せて、同

お知らせのボタンからリンク、ご参照頂ければ幸いです。
<https://choyaku.net/kinki/index.html>
近畿支部事務局 〒573-0101 枚方市長尾峠町1-45
摂南大学薬学部 生物系薬学分野
伊藤 潔

＜新任幹事ご挨拶と大阪・関西における コロナ現場対応＞

幹事 渡辺 修二（昭57）

昭和57年卒の渡辺と申します。同窓会報には初めての寄稿となりますが、このような機会を与えていただきました近畿支部の末澤支部長及び伊藤幹事長には心より感謝申し上げます。

昨年は末澤支部長の支部だよりもありますように、近畿支部創立百年に合わせて長薬同窓会定期総会が大阪で開催されました。大学卒業以来京都に本社を置く製薬会社に勤務して35年ほどが経ち、ちょうど会社を退職する節目の年でもあったことより定期総会に参加させていただきました（たぶん総会への参加は初めてだったと思います）。ところが、同期である昭和57年卒のメンバーの参加があまりに少なく、「これではいかん、もっと声をかけよう」との思いで、近畿支部幹事である阿波ちゃんこと森藤さんと伊藤幹事長に相談したところ、快く幹事の仲間入りを認めていただきました。しかし、昨年11月に打合せを行った後は、支部長の文章にもありますように支部活動ができないような状況が続いています。

さて上述しましたように、私は昨年一旦会社を退職したものの、その後は兵庫県尼崎市にあります消毒薬や局方医薬品を専門に製造している上記会社のグループ会社に勤務しています。今回の新型コロナウイルス騒動の影響は、消毒薬を主力製品としている当社にとっては非常に大きなものでした。

国内で感染が確認され始めた頃より消毒薬の需要は徐々に増大し、4月に緊急事態宣言が出されてからは、医

療用医薬品である消毒用エタノールだけではなく、一般用医薬品の消毒薬も出荷を制限せざるを得ない状況となりました。一方で、この頃より消毒薬の原料となるエタノール（原料アルコール）の調達が急速に困難となり、製品は作りたいが原料が足りないという状況に陥りました。更に時を前後して、消毒薬の自治体への供給を優先する厚生労働省や経済産業省からの「手指消毒薬の安定供給スキーム」の通達（3月）、大阪府の吉村知事によるポビドンヨード入りうがい薬の記者会見（8月）など、国や自治体トップの言動が社内の混乱に追い打ちをかけることになりました。

一方で生産現場では、従業員をいかに感染から防ぐのかという大きな課題に直面することになりました。生産現場の業務はテレワークができず、多くの従業員は毎日公共交通機関を使って通勤しています。マスクの着用や頻繁な手指の消毒、毎朝の検温などは早くから指示しましたが、結局採った対応としては早朝からの時差勤務、工場部門以外の社員との社内動線の分離、パーティションの設置など、当たり前ですができることを粛々とやるとの決意で生産を続けてきました。

それが功を奏したか（?）、現在までに一人の感染者も出さず、また原料アルコールの供給も徐々に緩和され、主要製品の出荷制限はまだ続いています、何とか新常态の中での落ち着きを取り戻しつつあるところですが、

これから冬を迎え、新型コロナウイルス感染の第二波、第三波に加えインフルエンザも危惧されているところですが、同窓会の皆さま、またご家族の皆さま、咳エチケットや三密回避など感染には十分に留意され、健やかな年末年始を迎えられますことを心よりお祈り申し上げます。近畿支部新任幹事挨拶とさせていただきます。

●● 山陰支部 ●●

前支部長 橋本 寛（昭52）

皆様、大変ご無沙汰いたしております。

山陰支部の活動はほとんどなされていない状況ですので、今回は私見を書かせていただきます。また、新型コロナ禍で各支部の同窓会活動や卒業学年別の同窓会もままならない状態ではないかと推察いたしております。恐らく、編集に当たられる担当の方々のご苦勞は如何なものかと心配されます。

山陰支部においても何時開催できるものやら…、次年は開催できるのでは？と、希望している次第です。

私事ですが、近年身内に不幸が続き、そのためトラブルに悩まされ、ついには体調を悪くしてしまいました。医師からは嚴重に身体と精神の体調管理を申し付けられている訳でして、今春になり後輩の郡山氏に山陰支部の運営をお願いし了承を得たところでした。

昭和の時代は遠く4半世紀以上経ってしまい、そろそろ平成卒の人材に期待し令和時代にふさわしい取り組みをお願いしたらと意見が一致したところですが。20代・30代の若人が参加してくれなくてジジババ同窓会（老人会）になっているのは寂しい限りです。私にも孫達が生

まれ、その成長を見守ることが至上の喜びとなってしまいました。ですから一線から身を引く頃合いなのです。この2、3年庭いじりに精を出しておりました、特につつじや椿の花に安らぎを感じます。お蔭で祖父や父が庭の草木を愛でていた面影が浮かび、満足する日々を送っております。

久しぶりに山陰支部のホームページを覗いたところ、

新支部長 郡山 信宏 (昭61)

同窓生の皆様、橋本先生のご指名により、今春より山陰支部長となりました郡山信宏です。橋本先生の元、同窓会の使いばしりをさせていただいておりましたが、平成世代の先生方にバトンタッチする前のリリーフとして登板した次第です。鳥根県松江市内で調剤薬局を営んでおります。学生時代はブルーマウンテンに所属していました。学部HPを見て驚いたのですが今でもサークルが存在していることを喜

更新は10年間も行っていませんでした。そしてこの動画どうやって作った?とか、支部あてのメールが使えなくなってしまっていることに気づかされた次第です。今から更新し直そうと思っても作成方法を忘れてしまっている今日この頃なのです。

徒然と感じ思ったことを書きましたが、後輩諸氏の益々のご活躍を願っております。

ばしく思います。今では全く遠ざかっていますが、私も約40年前には勉強そちのけで音楽に明け暮れておりました。

山陰支部は、鳥根県と鳥取県二つの県にまたがっており東西280kmと横に長い地区のため、同窓会をしてもなかなか同窓生が集まっていただけできません。ここ数年、前支部長のご体調がすぐれなかったこともあり、それに加え、今年は新型コロナ禍の影響もあり、同窓会の開催ができておりませんでした。来年こそは開催したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

●● 福岡支部浦陵会 ●●

福岡支部浦陵会支部長の独り言

会長 池田 光政 (昭57)

福岡支部浦陵会支部長をしています。昭和57年卒の池田です。本来なら、福岡支部浦陵会の総会の状況を報告するところですが、本年度は、コロナの影響で総会開催を中止することにしました。

本部から、何でもいいから投稿してくださいとのことでしたので、コロナ感染対策のうちPCR検査についての状況を報告します。

私は、福岡県庁の薬務課長を最後に退職し、現在公益財団法人 北九州生活科学センターの理事長をしています。毎日、朝倉市から北九州市まで2時間通勤しています。

センターは、食品、飲料水、環境、微生物など様々な検査を行っています。最近よくテレビ等で話題になっているPCR検査も行っています。

ここで少し、コロナ関係の検査について、お話ししま

す。もう既知っているかと思いますが。

現在コロナに感染しているかどうかの検査が、PCR検査と抗原検査です。PCR検査は結果が出るまで数時間、抗原検査は30分ですが、抗原検査はPCR検査に比べて感度が高くないことから、コロナ感染の確定診断としてPCR検査が多く用いられています。

抗体検査は、過去コロナに感染していたかを判断するための検査で、疫学検査に用いられています。

センターでは、北九州市から行政検査(感染者や濃厚接触者の感染の有無を判定)、妊婦の方の検査(希望する方は全額公費負担)、かかりつけ医からの依頼検査としてPCR検査を行っています。

執筆している段階では、政府として、重症者対策として高齢者施設や介護施設の従業員に対して、また、経済活動再開のための関係者の対しての補助が検討されています。当センターは、公営法人であることから、コロナ感染防止と社会活動再開に対してPCR検査を通じて社会貢献ができるよう頑張っていきます。

皆様におかれても、大変な時期が続きますが、終息に向けて薬剤師として貢献していきましょう。

●● 大分支部 ●●

幹事 陸丸 幹男 (院平15)

令和2年2月1日(土)、大分市アートホテル(旧アリストンホテル)にて、長薬同窓会大分支部総会及び新年

会が開催されました。新型コロナウイルスの影響もあり今回の出席者は14名と例年より少なかったですが、大変賑やかな会となりましたので、ご報告させていただきます。私は平成27年度から長薬同窓会大分支部事務局を担当しております陸丸幹男(院平15)と申します。

来賓として本部から山口正広副会長(昭56)をお招きしました。議事に入る前に恒例の写真撮影を行ないまし

た。その後は石橋眞支部長（昭49）の代理として上ノ段茂先生（昭50）の挨拶があり、来賓の山口正広副会長からご挨拶及び近況報告が行われました。総会では収支決算や会員の移動等の報告を行ないました。近年若い卒業生の参加が少なく、なかなか後輩の卒業生に会えなくて寂しく思っています。例年ならば、ここで大分支部最年長の西川恭夫先生（昭26）から乾杯のご発声をしていただくところですが、今回は直前に体調を崩されたとのことで欠席となりました。来年また元気な姿を見せていただけることを楽しみにしています。

会員の皆様方は、宴会テーブルにそれぞれ分かれて座り、世代の垣根を超えて料理やお酒を楽しみながら学生時代や現在の仕事の話に華を咲かせていました。毎年恒例の近況報告では、卒業年度の若い順に全員がスピーチをします。皆さん個性豊かな近況報告をありがとうございます

いました。私も生涯現役の薬剤師を目指して頑張りたいと思えました。

会の最後にはいつも巻頭言、校歌斉唱、万歳三唱と続きます。巻頭言は堤勝也先生（昭62）に毎年お願いしています。今年も例年以上にすばらしく、堂々たる声に聞き惚れながら、全員で校歌を熱唱しました。そして野尻敏博先生（昭48）が締めあいさつと万歳三唱を行ない閉会となりました。

今年新型コロナウイルス流行により今までのような日常が出来ないもどかしい毎日が続いています。私は現在、大分市医師会立アルメイダ病院という三次救急病院に勤務しています。入院患者さんへの面会は原則禁止、感染防止対策の徹底を行なっています。一日でも早く普通の日常が送れる毎日に来ることを心から願っています。



令和2年2月1日 於 アートホテル大分

●● 熊本支部 ●●

支部長 山本喜一郎（院昭55）

令和2年の長薬同窓会熊本支部例会は9月5日（土）に開催を予定していました。しかしながら、昨年末中国武漢市での発生後世界的流行となった新型コロナ感染症は、我が国においても春に流行の第一波を呈し、その後夏を迎えても感染の拡がりの勢いが衰えず、熊本でも多くの感染例が報告されました。このような事態を踏まえて、残念ながら支部例会を中止といたしました。

さて、全国的なニュースとなりましたので皆様ご存知かと思いますが、熊本は7月に記録的集中豪雨に襲われました。特に人吉・球磨地方は球磨川の氾濫による洪水被害を被りました。その折、支部会員の上仲小玲さん（平6）から人吉市で開局されている前田健治さん（平5）が被害を受けたらしいとの報告を受けました。当初連絡が取れず心配していたのですが、やっと前田さんと連絡がとれ、薬局は浸水被害を受けたものご自身や御家族は無事であることが分かり、ホッといたしました。しかしながら、薬局は閉局して9月からは他の薬局へ勤務されるということでした。

以下に前田さんに寄稿していただいた被害の様子を引用いたします。

<熊本豪雨で薬局水没>

前田 健次 (平5)

その日は早朝4時頃から防災無線で非難の呼びかけが始まり、5時頃からは市長自らが危機感を持った音声で非難を呼びかけるようになりました。またLINEでも球磨川が堤防ギリギリまで増水していると写真が送られてきました。ただ、そのころ球磨川から2km程離れた自宅周辺は雨もひどくなくそのうち水位も減るだろうと思っていました。

ところが朝起きてテレビをつけると球磨川が浸水している映像が映り、人吉でも浸水している所があるということでした(この時もう雨はやんでいた)。ちょうどその時警備会社から「警備機器の通信が途絶えたので確認しに行ったが浸水していて近づけなかった」と電話があり、あわてて薬局に向かいました。手前の球磨川支流が氾濫しており、上流にまわってなんとか橋を渡ることはできたものの、周辺が冠水していて近づくことは出来ませんでした。どうしようかと右往左往している間にも水が増えてきたため、一旦自宅へ帰ることに。その後も水かさが増して薬局は天井上まで浸水し閉局することになりました。

毎年のようになんらかの水害がある球磨川ですが、今回のような被害は誰も予想できなかったことでした。近年、想定外の天災が至る所で起こっています。皆さんも他人事と思わずくれぐれも気を付けてください。なお、同窓生からは多大な支援を頂き本当に感謝しています。ありがとうございました。(人吉市在住)



写真1 薬局内の様子



写真2 人吉市内の様子

●● 佐賀支部若楠会 ●●

日迫 剛志 (平4)

例年、支部だよりでは、支部の総会等の開催状況をご報告していますが、今年度、佐賀支部では新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い開催の見込みも立っていない状況のため、勤務先である保健所において新型コロナ対応で経験したことをご紹介させていただきたいと思えます。

私は佐賀県庁に勤務しておりますが、昨年(平成31年)4月より佐賀市に所在する佐賀中部保健福祉事務所環境保全課に配属となり、大気汚染や水質汚濁の防止等環境保全業務に携わっています。

保健所では従来から新型インフルエンザ感染症が拡大した場合に備えて、疫学調査班、相談班、患者等移送班、消毒班等の対策班を編成し、本来業務とは別に全職員約60名を割り当てていますが、私はこの対策班において消毒班長に充てられており、今回の新型コロナにおいても

この対策班により対応しているところです。

今年1月に新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されたのはご承知のとおりと思えます。佐賀県内では3月中旬に初めて陽性者が確認され、令和2年9月末時点で陽性者数は245名、そのうち勤務保健所管内では152名の陽性者が確認、3件のクラスターが発生している状況です。

保健所での新型コロナ対応は感染症法の規定等に基づき行っており、「帰国者・接触者相談センター」の設置や陽性者が確認された場合の疫学調査、濃厚接触者に対する行政検査、陽性者の入院調整・移送、医療機関で採取した検体の検査機関への搬送等を各対策班の役割分担のもと実施しています。

私が担当している消毒班では、行政検査に係る検体採取の際の消毒作業、消毒に関する相談受付などを行っています。また、消毒用アルコールが市場で不足していた時期には、陽性者の自宅や勤務先等の消毒作業も行っていました。

保健所における検体採取は原則、保健所敷地内にある車庫内で、検体を採取する医師、それを補助する保健師

と消毒班員でチームを組んでドライブスルーやウォークイン方式で行っていますが、陽性者が1名出れば、その家族、職場の同僚、陽性者が児童・生徒であれば同級生などの学校関係者等芋づる式に濃厚接触者が増えることになるため、7月下旬からのいわゆる第2波の際は、防護服・N95マスク等の装備で猛暑の中の作業が休日を含め連日、朝から夕方まで続いた時期があり、各班員交代や他部署の応援を受けて作業をしたものの疲労困憊といった状況でした。中でも所内で1名の医師であり対策の統括を行っている保健所長や、疫学調査、24時間の電話相談窓口、1人1人に検査結果の報告等を行う保健師の負担は特に大きいものがあったと思います。

9月に入り佐賀県では陽性者の発生が減少し、それに

伴い濃厚接触者の行政検査も減少しており、新型コロナ対応としては落ち着いている状況です（会報誌が発行されるときは、どのような状況になっているか不安ではありますが）。

今後、これまで集積された知見等に基づき法令等の見直しが行われ、新型コロナに対する保健所の取り組みも変わってくるものと思われます。

新型コロナの拡大は世界中でトップニュースとなり、経済に多大な影響を与え、生活様式も一変させる歴史に残る出来事になっていると思います。1日も早い終息を祈りつつ、この出来事に一市民としてではなく、ほんの片隅ではありますがその対策に業務として携われたことは貴重な経験となっています。

● ● 長崎県北支部 ● ●

支部長 相川 康博（昭48）

昨年度は私の病気のため同窓会を開けず、今年度こそはと思っていたところ新型コロナで開くわけもいかず、報告をどうしようかと思い悩んでいたところ、今年9月に2つの台風が前後して五島の西と東の海上を通過していきました。特に後の10号は、超強烈な勢力で佐世保の近くを通るということで、これまでの備えではダメだということで、我が家でも雨戸とシャッター、ないところは運を天に任せてガラスに目張り、準備万端にして無事に台風が通過してくれることを祈るしかなく、それにしても初めて経験する風のすごさに恐怖を感じながら夜を過ごし、朝起きて被害状況を確認すると、庭の梅の枝2本が幹から削ぎ落とされるように折れており、改めて風のすごさを実感しました。

その台風への備えも早めに終えたので、気にはしてはいたものの、終活というのが写真を撮ると魂を抜かれるという昔の迷信さながら避けていたのですが、全麻下での手術を受ける羽目になったこともあり、元気なうちにはと思い、それまでにため込んでいた雑誌や資料を整理することにして、大量に本棚から撤去しました。

その時、平成11年の佐世保支部の同窓会で配布された名簿が出てきたので、ぱらぱらと中をめくると懐かしい名前がたくさん載っていました。そうだ、今年の報告はこれにしよう、まさに渡りに船でした。

昭和50年に本当にいろいろなことがあって、故郷の佐世保に戻って就職することになり、たまたま配属になった市保健所に同窓の先輩が3人もおられて、当時は不定期に2、3年おきに開かれる同窓会に有無を言わず出席させられたものでした。

当時の支部長は確か早岐駅前にある山口薬局の山口廣次先生（昭11）、学生時代も漢方の講義を受けたのです

が、早岐から大学まで駅の構内タクシーでやって来られる名物先生で、同窓会でも時々漢方の話を聞きました。その後を東七（株）社長の東優一郎先生（昭17）が引き継がれ、平成11年という次の保健所OBの大隈直之先生（昭23）に代わる前後の頃です。10年ほど支部長をやられていたのですが、平成20年4月に急逝されたので、同年7月から佐世保労災病院OBで定年後大和調剤薬局を開局された今上亨先生（昭25）が務められ、平成22年から今泉薬局（現今泉調剤薬局本店）の今泉喜世志先生（昭31）が2年、平成24年から私があとを引き継いで現在に至っています。

平成11年の名簿では佐世保支部となっていますが、その後近郊の地区も含めた長崎県北支部と名称も変更しました。

支部同窓会では恒例となっている皆さんの近況報告に代えて、知る限りでお知らせしたいと思います。真っ先に報告は、残念なことに林田匡代さん（昭36）が、昨年11月に亡くなられました。山口、東両支部長時代からずっと支部のいろんな面で支えていただいたのですが寂しくなりました、ご冥福をお祈りします。

ほぼ卒業年順に、松田雄光さん（昭25）、昼休みに東七本社の近くを散歩していると、病院帰りだと言われながらお会いしていたのが、しばらくなかったので心配していたら、9月の終わりに大野モールで偶然お会いして安心しました。末武和子さん（昭29）、林田先生の葬儀の時ではありましたが相変わらずのドスのきいたお叱りをいただきました。中島憲一郎さん（昭46）、3月で長崎国際大学学長を、榊原隆三さん（院昭50）が薬学部長をそれぞれ退任されています。大井和子さん（昭47）、近所に畑を借りておられて、時々お孫さん連れで作業されているのを見かけます。宮田節子さん（昭48）、1月に旦那さんを亡くされ小児科医院も閉じられ、初盆参りに伺ったときは思ったより元気だったので安心しました。田代佐夫子さん（院昭48）、時々電話して来られますが元気で川富内科で勤務されています。光富吉朗さん（昭52）、毎日東

七の私の隣の机で頑張っています。東三郎、東文子さん（昭56）、アルカスでの薬剤師会の勉強会に揃って来られています。三郎さんとはゴルフの月例会でもお会いします。相葉啓子さん（昭58）、自衛隊病院を少し早く退官して、荻野清子さん（昭62）の誘いで佐世保市総合医療センターと一緒に働いているとのことでした。岩竹芳博

（昭61）も一緒です。小山季之さん（平2）、小山令恵さん（平2）、早岐駅前の山口薬局の窓口での患者対応や薬局周囲を掃除されているのを車の中から拝見します。

新型コロナが治まらないとなかなか同窓会も開けませんが、また元気な顔を拝見できる日が早く来ることを祈って今年の報告とします。

●● 長崎県央支部 ●●

支部長 西村 昇（昭50）

世界の人々を震撼させているコロナ禍は長崎でも御多分に洩れず、自粛生活を余儀なくされ、支部総会、懇親会の案内もできなく歯がゆい思いをしています。来年は人類の努力により好転し、総会等の活動が再開できるよう祈念し、各位のご健康を願うところであります。

今回は支部報告として近況をご紹介します。

<2020年度の県央支部の近況>

池田 理恵（平13）

今年は、未曾有の感染症の危機に、地域医療の果たす役割を実感すると同時に、無力感も感じる年でした。

保険薬局に勤務する中で、保険調剤はもちろん、医療・衛生材料の供給拠点としてマスク・消毒薬・体温計などの供給に加えて、医療情報の提供拠点として、消毒方法など正しい情報の発信に努めています。学校薬剤師として、学校の環境衛生対策の相談対応も行っています。中には、衛生材料が不足しているときにはお叱りの声を受れたり、消毒薬の問い合わせを多く受れたり、中には十分な提供ができないうちもありました。しかし、不安が大きいのしかかる中、顔を合わせたときに患者様に「ホッ」と安心の笑顔が見えた時には、今まで築いてきた「かかりつけ」としての顔が見える関係が、皆様の安心に少しでも貢献しているのかなと感じ、薬剤師としての充実感を感じています。また、緊急時だからこそ、地域での薬剤師同士の連携は大きな支えになっています。

長薬同窓生は、会員や理事として、地域薬剤師会の活動にも取り組んでいます。

一般社団法人諫早市薬剤師会では、新型コロナウイルス感染症の流行に対する時限措置として、電話等診療で処方せんが発行された場合に、処方薬のタクシー配送を実施するために必要な基本的事項を定めた協定を令和2年8月17日に締結しました。これは、タクシー事業者が、タクシー救済事業等として処方せんに基づく処方薬の受け取り代行をする場合、服薬指導は薬剤師が患者またはその看護者にオンライン等で服薬指導を行ったうえで、関連の通知を遵守し行うことができるものです。この実

施にあたり、医薬品の特性を鑑みて、安全性の確保・個人情報保護の保護が欠かせないことから、協定では、適切に執り行われるために必要な規定を定めました。

新型コロナウイルス感染症に対する恐怖は、地域住民に対して、外出控え、ひいては受診控えを招いています。本来、患者は受診して適切な医療を受けるべきですが、過剰な受診控えによる、病態の悪化や疾患発見の遅れが懸念されます。適切な受診が行われている間は、タクシー配送は必要ないとも考えられますが、タクシー配送の取り組みは、患者と医療をつなぐ一助として非常時に備えたものです。この取り組みは、異業種との連携である点でも注目され、薬事日報に取り上げられた他、地域の広報媒体にも取り上げられました。

65件の保険薬局でつく
る諫早市薬剤師会（堀剛
会長）、6社が加盟する
諫早市タクシー協会（永
尾典嗣会長）は21日、新型
コロナウイルス感染症の
拡大時でも自宅まで薬が受
け取れるように、薬配送
代行の協定を締結した。
タクシー会社単独で薬配
送を代行している例はあ
るが、団体同士の協定締
結は県内初。
かかりつけ病院が電話
などを使った診療に対応
していることが利用の前
提。病院から薬局に送付
された処方せん情報をも
とに薬局で調剤し、タク
シーで配送する。利用者
はタクシー運転手に薬局
から自宅までのタクシー
代を支払い、診療代や薬
代は別途、支払う。
諫早市商工会館で調印式
があり、配送時の注意事
項や個人情報取り扱い
などを取り決めた協定書
に両会長が押印した。堀
会長は「安全安心に薬を
受け取る仕組みづくり
で社会貢献できれば」、
永尾会長は「さまざまな
サービスにつながる機会
として、需要の増加に期
待している」と話した。
調印後、市内の薬局に
移動し、両団体関係者や
報道陣が見守る中、タク
シー運転手が薬剤師から
薬を受け取る場面を実演
した。
（江崎博子）

諫早市の薬剤師会とタクシー協会
薬の宅配代行で協定

協定を結んだ諫早市薬剤師会と諫早市タクシー協会のメンバー
— 諫早市高城町、諫早商工会館

薬剤師から説明を受け薬を
受け取るタクシー
— 諫早市内

長崎新聞 (02/08/22)

他にも、地域薬剤師会の活動の中で、同窓生同士の連携は大いに原動力になっています。諫早市薬剤師会では従前から地域の皆様に、薬局の利用方法を啓発するために、出前講座を行っています。正しい薬の使い方から、お薬手帳やかかりつけ薬剤師の啓発まで、まさに草の根活動に取り組んでおり、受講していただいた皆様からは、おかげ様で好評を頂いています。今年は、その開

催事態が難しい状態ですが、長薬同窓生を含め、委員が一丸となって取り組んでいます。

このように、緊急時だからこそ、薬剤師の真価が問われている、とも言えます。日常から緊急時まで、個々の薬局から地域連携まで、連携の“和”の力で、この難所を乗り越えられると信じています。

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

新型コロナウイルス感染症と
これからの同窓会の在り方について

会長 澤勢 瑞城 (平15)

拝啓 平素より諸先輩方はじめ同窓会会員の皆様には会務へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度は長薬同窓会定期総会の長崎開催の予定であったところを新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたことを大変残念に思いますとともに、開催へ向けていろいろとお世話を頂いておりました関係者の皆様には、感謝とともに誠に申し訳なく思っています。

さて表記に題しました通り新型コロナウイルス感染症は私たちの生活に多大な影響を及ぼしました。長薬同窓会長崎支部においても同様でありました。長崎開催の同窓会総会中止・ぐびろ会総会が中止となり長崎支部も同窓会に倣い書面評決といたしました。

これまでの開催と違い書面による評決とあって通常は参加者だけが当日目に見ている資料が書面評決のため全会員に知らずとも見て頂く機会を得ましたが、様々なご意見を頂戴したことは大変ありがたいことだと感じました。確かに感染症拡大予防のためにいろいろな制限を受けることが多く、窮屈な面・不便な面が多いように感じますが、この度の書面評決で皆様より頂いた助言をヒントに、これを機に同窓会の在り方も変化して行くべきではないかと考えました。世の中でもオンライン講習会・飲み会など直接集まれない中でも取捨選択し、企業や様々な団体が活動しているのを耳にし、私達同窓会も何が大切で何を切り捨てるべきかを問われているのだと思います。そして変化に対応した後に、本当に永く続いて行く同窓会の形が見えるような気がしています。

閉塞感の続くニュースの中で、私にとって大変印象深かったのが、去る10月1日長薬同窓会から薬学部一年生への白衣贈呈式に同窓会副会長としてまた、長崎支部長として参加させて頂いたことです。

式では尾野村学部長、山口同窓会長よりご挨拶の後、贈呈された白衣を着用した代表者と記念撮影をしました。これから将来のある生徒達の新しい船出に関わらせて頂いた心持になり大変光栄に感じました。皆さんには

ぜひ実り多き学校生活を送って頂きたいと思うとともに、このコロナ禍を乗り切った後のこの子たちは強く逞しく社会を引っ張って行くのだらうかと確信しました。



以下同窓会HPより引用しますが『長崎では大正元年10月のコレラで139名が死亡し、また、大正9年にはインフルエンザが流行して、328名の死者を記録した。このとき、長崎医学専門学校校長尾長守三も流感のため死亡した。大正10年11月には長崎市聖徳寺において、「解剖千体祭」が行われた。明治21年以降大正10年までに千体の解剖が行われたことによる。この間、校舎も変遷を遂げた。第五高等学校薬学科開設以来、もともと特別に独立した校舎はなく、医学科の中で受講していた。校舎が新築された第五高等学校から医学専門学校時代の薬学科は、300坪程度の木造平屋建てであった。大正12年木造2階建ての700坪の新校舎が竣工した。(長崎大学薬学部HPより引用)』とあります。100年前の先人達の経験を活かし何を恐れどう行動するべきか各々に問われているような気がしています。

世間で今流行りの断捨離などもいいかもしれません。皆様もこれを機会に身近なものをアフターコロナの新様式にやり替え、また同窓会にも思いを馳せて頂き先輩方が乗り越えて来た困難からヒントを頂き、また後進を支えて頂く気持ちを同窓会に頂けたらと思ひ筆を置きたいと思ひます。

末筆ながらこの度の書面表決による印刷物・郵送の資金繰りも取捨選択が必要な状況に置かれております。皆様には会費の納入に関してもご高配を賜れたら幸いかと存じます。

敬具

クラス会および近況だより

松本康裕先生を偲んで

古川 淳 (昭25)



猛暑の夏も終わり、秋も深まりました。松本先生(昭24)ご逝去の報を聞いてから約1年になります。昨年の同窓会報(第59号)に、福岡浦陵会会長池田光政氏(昭57)の松本先生を偲ぶ一文がありました。浦陵会懇親会の席上で、松本先生は真剣を振って居合術を披露されていた

ことが記されていました。その時は、羽織、袴を着て、凛とした表情の松本先生の姿を思い出しました。

私が先生と初めてお会いしたのは、多分72~3年前(遠い昔)、薬学専門部の1年生か2年生の頃と思います。当時は戦後の混乱期、全てが窮乏、耐乏の時代でした。松本先生は、卒業後、梁井先生(薬品製造学)の助手として勤務され、その後、安永先生(分析学)の推薦で岐阜大学医学部法医学・須山教授の教室へ。ここで研究を重ね医学博士の学位を得られました。平成4年には、第一薬科大学教授(薬剤学)、次いで第一経済大学教授、福岡経済大学教授として広く学生の教育、研究に専念されました。

先日、私の古いアルバムの中に、すでにセピア色になった懐かしい古い写真を見つけました。それは諫早市小野島の仮校舎、天井張りもなく、電燈線がぶら下がり、木造の実験台、周囲はすべて板張りの実験室でした。その中で、実験の準備や指導をいただいた松本先生を中心に40~50人の白衣を着た私の同級生達の姿がありました。写真の裏には“製薬実習室にて、松本助手”と書いてあり、遠い昔の若者たちでした。

松本先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。



会報56号 福岡支部だより より

コロナで消えた今年の三葉会

安永ハルミ (昭34)

去年の三葉会は卒後60周年を記念して長崎市で開催されました。これが最後かなーと参加者皆が感じていました。でも、私の心の中で何かこみ上げるものがあって、私が幹事役に名乗りを上げ、令和になったことを記念して、今年10月17日太宰府で行う予定でした。コロナの早い終息を願っていたのですが、やはり無理と判断して中止にしました。

三葉会のメンバーも高齢のため、だんだんと参加者が少なくなってきました。身体が不自由になったり、配偶者の介護、認知症などいろいろです。私自身も身体を鍛えているつもりでも、気が焦って足が前に出ていなくて転んだりします。しかし、三葉会は心の支えであり癒やしです。

昔、若かった頃勉学に燃えていた青春、色々と楽しかった思い出がいっぱいです。今でも、年一回開催される三葉会に出席するため、元気でいようと頭も身体も鍛えているつもりです。仕事にも張りがでます。リフレッシュです。今も調剤薬局で仕事をしていますが・・・何か燃えるものを感じません。

時代も進歩して昔の医薬分業の頃とくらべて何と様変わりしたとか？昔の方が何か気持ちに余裕があって良かった気がします。今はパソコンなどの機器、AIに動かされている様で付いていけません。薬学部も6年制になったし、老兵は・・・ですか？

来年の三葉会が開催できることを願っています。皆さんに会える日を楽しみにして。

同期二人の急逝

白松 一良 (昭36)

今年（令和2年）10月を迎え、二人の同期生が黄泉へと旅立ちました。浅井武君と松林重宗君です。わずか1週間の間で二人の友を喪った知らせは大きなショックでした。心からのご冥福をお祈りします。

我らの昭和36年卒組は卒業後約60年を経過し「36ばってん会」と称する同期会を楽しんでいた所です。2011年、長崎おくちに合わせて卒後50周年会を長崎のホテル「清風」で21名の同期が集いでしたが、奇しくもこの度亡くなった二人も元気で参加していました。（写真）

浅井君は、卒業後武田薬品に勤め包装設計の分野で活躍しました。退職後、前立腺癌などを克服して水泳に励みマスターズ大会では多くのメダルを獲得しました。また、自宅近く（吹田市）の混声合唱団に入り、コーラスを楽しんでいました。学生時代も高音の響き美しい声で歌ってました。その後、間質性肺炎と闘ってきましたが、本年悪性リンパ腫には勝てませんでした。彼の遺稿と

なった長薬同窓会誌第59号（2019）「80歳になっての毎日」を懐かしく且つ考え深く読み返しています。

松林君は、卒後長崎の水道局に勤め下水処理行政に専念。趣味は、幼い頃から絵の天分があり、水彩画でその才能を遺憾なく発揮して、「松林重宗水彩画集」や「長崎を描いてさるく」（画文集）を発刊しました。長崎で絵画教室を開き後進の指導もしていました。長崎県美術協会支部長や日本水彩画会監事など要職を務めていました。彼の作品は、柔らかいタッチの中にも力強さを感じる素晴らしい水彩画です。彼は、不幸にも車の運転中に様態が急変し、救急車で搬送されましたが、突然の腹部動脈瘤破裂には手の施しようがなかったとのことでした。

傘寿の壁を越えて大きな曲がり角に立っていると実感する日々です。さてさて、東京オリンピックをこの目に焼き付けることが出来るでしょうかー「いのち」に感謝します。

コスモス咲き乱れ友二人逝く空 いちろう 合掌



50周年「36ばってん会」平成23年10月7日、於 長崎清風
後列左から、浅井武、永田了一、宇田恭子、檜崎妙子、藤島一薫、白松一良、
松林重宗、山下妙子、有吉美恵子、園田フミ、越中利治、黒田誠
前列左から、自見紀子、林田匡代、岩切桂子、粟屋順子、穴井知永子、
伊藤由紀子、味田和子、高木マサミ、武田成子（21名）

80歳を過ぎた今

寺尾 桂子 (昭37)

振り返れば、私の薬学部を目指した原点は、終戦直後に死亡した母にあります。戦時中の過労で病に伏し、ようやく訪れた平和を見届けることもなく、薬はおろか生活物資さえ乏しい時によりやく手に入れたブドウ糖の点

滴を受けた後逝ってしまいました。もっと早く薬が手に入り、適切な診断の上に適切な薬で治療が出来ていたら、母の命を救う事が出来たのではないかとの思いをずっと抱いていました。

大学では梁井教授の有機合成化学教室に在籍し、創薬に興味を持ちました。高度経済成長期に向かう時期に味の素KKの研究室に就職しました。都会の生活に慣れるのに精一杯で、1964年に開催された東京オリンピックはあまり記憶にありません。

その後結婚して下関に住むようになって55年になりました。大学病院での研修を経て神戸製鋼所の病院（のちに診療所となる）に長く勤め、産業医と連携して社員の健康維持に努め、そこを退職してからもずっと薬剤師として80歳を過ぎた今でも仕事を続けています。

疾病や健康維持増進等の情報を理解して我が身や家族にそれぞれ実践しながら、大病もせずに80歳の大台に乗ってもまだ尚、取得したライセンスを生かし、高齢化社会にあって、人に寄り添い、人と社会に繋がって、自分を生かし 生かされ 生きている事を実感しながら、仕事を続けていける事を本当に有難く幸に思っています。また子供2人も医師（長男が精神科、長女が麻酔科）の道に進み、さらに孫3人も医学部医学科に在学してい

ます。私が薬剤師として長年働いてきた姿を見て、命の尊さを学んでくれた結果なのであれば、ありがたいことです。

昨年（2019年）第52回日本薬剤師会学術大会を下関の地に於いて、開催することが出来ました。台風19号により航空、鉄道が混乱する中1万人以上の参加者がありました。

そんな大変な中、ノーベル医学生理学賞を受賞された本庶佑京都大特別教授の「獲得免疫の驚くべき幸運」というテーマで特別記念講演を聞くことが出来ました。

コロナウイルスのパンデミックにより、日本も世界も大打撃を受け、2020年に予定されていたオリンピックも延期となってしまいました。今ワクチンの開発が進んでいますが、医療と薬学の連携によって、流行が収束することを願っています。2021年の東京オリンピックが開催されましたら、しっかり観戦して、記憶に残したいと思っています。

新型コロナウイルスの感染拡大

藤井 幹久（院昭44）

新型コロナ感染で学生運動を思い出しました。新型コロナウイルスの感染拡大がまだまだまだ続きそうな状況にあり、先の見通せない状況で「ワクチンの開発」が待たれておりますがどうなのでしょう。観光大分県は幸いなことに患者の新規拡大が一応抑えられているような状況です。聞くところによりますと来年大分県で長薬同窓会の年次総会があるとのこと。是非沢山のご参加をお願いしたいものだと思います。

現在場所の検討をしておりますが、この様な大分県でも観光客の壊滅的な客足の減少は経営を圧迫、一部で廃業、倒産あるいは一部従業員の削減も止む無きの状況で6月までに回復するか予断を許さない状況にあります。大広間での宴会形式が制限される様な状況もあります。席の配置も間引くとか、対面を避けるとか、人数制限や施設側からの提示がある状況でコロナの影響は測り知れないものがあります。コロナで中止になった時のキャンセル料の発生が無いように時期の検討も必要になるかもしれません。現在、支部長初めとして会場探しを始めようと話しています。

学校では授業がリモートの所も多いと聞きます。薬学部ではどうでしょうか。授業は良いとして実習授業は大変なのではないでしょうか。授業が無いと言えば「長崎大学学生会館封鎖大衆団交」や「エンタープライズ佐世保基地寄港反対闘争」などの影響で授業が出来ず卒業が危ぶまれたのを思い出します。

私も若かったので佐世保基地の正門での衝突現場にいました。圧倒的多数の警察が警備をしていました。数時間ごとの交代はすごかったな。数万人単位のジュラルミンの盾を持つ機動隊員が前後の並びを瞬時に入れ替わる体制で圧倒されたものです。16台の貸切バスに分乗して長大から参加した。「棍棒で叩かれたり、衝かれたり」するのでカンパをして購入したヘルメットの配布、先頭の5列目までくらい、服の下に週刊誌や新聞紙を入れ上着に紐を巻いて「顔にはドーラン」を塗り催涙弾対策をして参加した。西海橋の広場で「フランスデモの練習」横16人縦50人くらいのスクラムを組んで腰を低くしジグザグデモの練習をした。基地について海軍橋の袂で衝突になり、はぐれるが幸いにも三池労組の一行が中に入れてくれて事なきを得る。その日基地内に2名突入。12名が逮捕され、佐世保警察署で抗議デモの後学校に帰った。

当時は、学校に行こうにも授業が無いような状態で不安な時期があり、大学の周りを機動隊が警備して入学試験が行われたのを思い出します。昭和町校舎は機動隊に取巻かれていた。試験監督に行くのに本部隊舎裏門で身分証明書を出して大学に入り、監督をしたのを思い出しています。父兄は勿論学校内に入れませんでした。

そんな関係かどうかわかりませんが恋愛が多く、カップルが沢山出来今日幸せな家庭を持っている人を多く拝見し、コロナで人生の伴侶を獲得するのではと、まんざらコロナも悪いものではないかと思って眺めております。

昭和57年3月卒業生の「還暦の祝い同窓会」が開催されました

中嶋 幹郎 (昭57)

令和2年(2020年)3月21日(土)午後6時から、昭和57年(1982年)3月卒業生の「還暦の祝い同窓会」が長崎市内の「ホテルニュー長崎」において開かれました。

私たち昭和57年(1982年)3月卒業の同級生は、これまで3～4年に一度は定期的集まり、みんなで親睦を深めてきました。前回は、卒業35周年を記念した学年同窓会を、平成28年(2016年)6月11日(土)に福岡市内で行われた長薬同窓会定期総会に併せて「ソラリア西鉄ホテル」において開催しました。これは同級生の池田光政さんが会長を務める長薬同窓会福岡支部浦陵会が中心となって行った定期総会を盛り上げる一貫として企画した次第です。この時は1学年下の昭和58年(1983年)3月卒業年と一緒の初めての2学年合同の同窓会で、とても弾んだ楽しい一夜を過ごしたことを覚えています。3年前の福岡で「次回同窓会はもう還暦やね」という話になり、そこで、同級生全員が還暦を迎えた後の令和2年(2020年)3月に、母校のある街、長崎で「還暦の祝い同窓会」を行う事が決まりました。

我々の学年は、当時の大学入試制度の共通1次試験が始まる1年前の昭和53年(1978年)4月に大学へ入学した世代です。昭和57年(1982年)3月卒業生86名の内訳は、女子学生50名(6割)に対して男子学生36名(4割)と、当時としては男子学生の割合が極めて高い学年でした。今の長崎大学薬学部では、学生の4割が男子学生といっても普通ですが、当時は極めて男子学生が多い大変活発な学年であったと思います。そのような理由もあってか、我々の学年は、当時開催されていた初夏の山登り合宿研修会の前コンや後コン、秋の薬学祭などの何かしらイベントがある度に、とても活発に活動し過ぎて、その結果やらかし、薬学部の先生方の記憶や、学年が異なる同窓生の皆さんの記憶に強い印象を残している有名人を何人も輩出した学年だと自負しています(笑)。

さて、今回の「還暦の祝い同窓会」は、高良さん、堀田(鈴木)さん、中西(中村)さんと私の4名が発起人を務めることになりました。会場は「ホテルニュー長崎」13階の中国料理「桃林」で、美味しい長崎中華に舌鼓を打ちながら、今の長崎の街の夜景を楽しみ語らう集まりにしました。当初は30数名の同級生から参加の申込みがあったのですが、新型コロナウイルスの感染が同窓会の1ヶ月ほど前の2月下旬から全国に広がったことが理由で、3月に入るとたくさんの同級生から「残念ですが今回は出席を見合わせ欠席させてほしい」との連絡を頂きました。その結果、今回は地元の同級生を中心に14名の集まりとなりました。出席者は以下の通りです。(敬称略) 木山(池田)容子、天野(甲斐)順子、森田(酒井)明美、中尾寿敏、長柄真司、長野(三浦)豊子、岡本(宮

岡)信恵、本多(大森)裕子、中島(窪地)敏樹、寺尾敏光、そして発起人の堀田(鈴木)千加子、中嶋幹郎、高良真也、中西(中村)美由紀。

このメンバー、ほとんどが学年同窓会の常連メンバーですが、今回は久しぶりに中尾さんと長柄さんが参加してくれました。なかには二人とは卒業式以来の再会という方もいました。私は二人とは学籍番号が近く、午後の学生実習では隣同士でしたし、中尾さんとは同じ野球部でしたので、久々の再会が嬉しく、とても楽しい時間を過ごすことができました。私は卒業後長崎大学に勤務しているため、学年同窓会には毎回欠かさず出席しています。学生時代の同級生と当時の懐かしい思い出を語り合ったり、また今の仕事や家庭の近況等を話し合ったりすることができる学年同窓会の席は、とても気持ちが休まる癒しの空間で、いつも沢山の元気をもらっています。全員が還暦を過ぎた令和2年(2020年)ですが、今回の同窓会でも、会った瞬間に会話がスタートすると卒業からの月日はあつと言う間に縮まってしまいました。今回はコロナ禍のこともあったため、食事の後には外には出ずホテルの中でお酒を楽しみながら、夜遅くまでみんなで愉快地に盛り上がった次第です。最後は、次回の学年同窓会での再会を約束してのお開きになりました。

今回はコロナ禍の影響で残念にも欠席された同窓生が多かったことと思いますが、次回は卒業40周年を記念した学年同窓会を、令和3年(2021年)4月～令和4年(2022年)3月の間に開催しようとの意見で纏まっています。つまり、この同窓会誌を読まれたら直ぐに令和3年(2021年)になりますので、東京オリンピックが開催される頃には、みなさんのお手元に卒業40周年を記念した学年同窓会のご案内が届くと思います。今回、出席できなかった昭和57年(1982年)3月卒業生のみなさん！同窓会は楽しいですよ。次ぎは是非お会いしましょう。



2020年3月21日 於 ホテルニュー長崎

2019年度 三浦先生を囲む会ご報告

金子 富美 (昭59)

放射薬品学教室や植物研究会で三浦先生にお世話になった長薬同窓生が集う、三浦博史先生を囲む会を、昨年12月14日にホテル長崎で開催しました。昨年の同窓会報誌の締め切りを過ぎての開催でしたので、今年報告させていただきます。

当日は池田千加子先輩と川原賢二君が幹事となり、川原君が準備してくれたバッジを胸につけ、円卓を囲みながら、長崎の美しい夕焼けから夜景へとうつりゆく時間帯に、放射薬品教室や植研の思い出話で盛り上がりました。



三浦先生が前回のこの会で話していただいた、記憶力を維持する工夫や色々なことを整理するのにお薦めの本の話題など、今回も引き続きレクチャーしていただき、我々が在学していた30年以上前と変わらず活き活きと話されるそのお姿に感銘しました。

ハワイと長崎を行ったり来たりされてきた三浦先生ですが、火山の噴火などもあり、そろそろハワイを引き払うと言われ、いつかこの会をハワイで開くことを夢見ていた我々は少し残念でしたが、「先生が長崎に帰ってこられたら、この会も毎年実施していただけますね?」となり、今年の幹事も決まっていたのですが、コロナの影響で、今年は見送りとなりました。

なお、三浦先生はCOVID-19の感染がまだ爆発的でない時に帰国され、今は長崎でお暮らしとのことでした。

早くCOVID-19の感染が落ち着き、皆さんとまた三浦先生の笑顔に癒やされたいと思います。

最前線でCOVID-19の対応をされていらっしゃる長薬同窓生の皆さまにおかれましては、大変な毎日でいらっしゃると思います。皆さまにお見舞い申し上げます。来年は長薬同窓会でぜひお目にかかりたいと思います。

昭和55卒業：池田千加子 池田富美子 熊 保子
昭和57卒業：森田明美 堀田千加子 岡本信恵
昭和59卒業：藤澤晶子 森田宏樹 川原賢二
和田 稔 金子富美



令和元年12月14日 於 ホテル長崎

コロナ禍における近況報告

鈴木ひとみ（昭60）

10年前からアマチュア合唱団で歌っています。アマチュアとしては、結構レベルが高いと自負しています。大ホールでパイプオルガンを初めて見たとき、興奮して見入ってしまいました。年をとっても続けていける、いい趣味が見つかったと喜んでいました。それが突然、新型コロナ感染の広がりによって、合唱することが“悪”のような風評が立ってしまいました。いつ終わるのかもわからない状況の中、このまま合唱はできなくなるのかと残念に思っていました。合唱団の指導者である郡司博先生は、「50年かけて作りあげてきたものが、いちどきに崩れ落ちるのがみえるようだった。」と語っています。

ベートーヴェン生誕250年の今年は、本来、全国各地で第九演奏会が行われたはずですが。私自身も、6月に予定していたボン・ベートーヴェン交響楽団との第九公演は中止になり、がっかりしたものです。それでも、先生はくじけず、シンガーシールド（写真1）なるものを考え出し、少人数での練習を6月から再開し、コンサートが開けることになったのです。各パート2～3人での練習は、ごまかすことができず、とても緊張しました。そのおかげで、一人一人の実力は上がったような気がします。

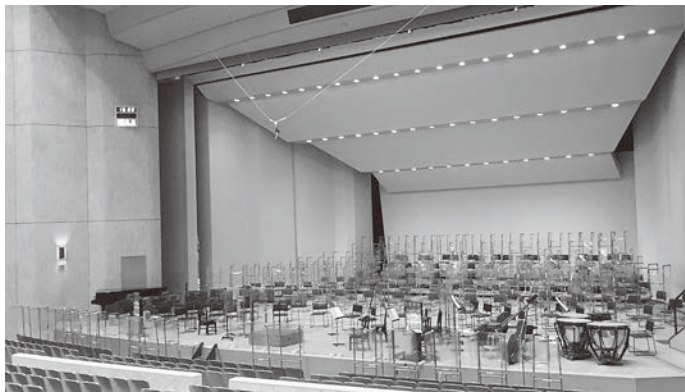
9月には、コロナ禍初の演奏会で第九を歌うことができました。オーケストラは練習会場を確保できず、練習不足ということで、ピアノと電子ピアノだけの伴奏、合唱は40人という小規模でした。（写真2）ステージ上では、合唱団一人一人にシンガーシールドを設置し、更に、入退場はマスクを着けたまま行い、歌うときだけマスクを着けるのは自己判断でとの指示の下歌いました。ステージ前には全面にクリアボードを設置し、短めのコンサートを3部にし、1コンサート中に2回の換気、お客様入場時は熱を測り、手の消毒、もぎりはお客様本



【写真1】



【写真2】



【写真3】

人により、プログラムも自分でとる、といった工夫をしました。客席は、両側及び前後を1席おきに3分の1の使用としました。演奏後、ロビーでは「ソリストが涙ぐみながら歌っていた」との声がきこえ、また、お客様も満足気で、ほっとしました。

そして、やっと10月17日新宿文化センター大ホールで、オケとの共演ができました。やはり短めの3コンサートの構成で、客席も1席おき、入場時等、前述のコンサートと同様にしました。昼の部の曲は、合唱が120人でしたが、ステージ上は70人制限（コロナ禍以前は、肩を重ねての密集状態で歌っていました）があったため、ステージの下で指揮者をモニターで見ながらの演奏でした。（写真3）コンサート後のお客様アンケートでは、「マスクなしでいいのではないか」という意見もあったり、「こんなステージは見たくなかった」という方もいらっしゃいました。

来年には、外国から指揮者を呼んで、東京オペラシティでのコンサートが予定されています。そのとき、指揮者が日本に来られるのか、合唱とオケは練習できるのかが、自分たちの努力で何ともできない不安要素です。

皆が思っていることでしょうか、早く普通の生活ができるようになって欲しい、と心から願っています。

卒後35周年記念同窓会延期について

山口 綾子 (昭60)

昨年度の同窓会報に、昭和60年卒業生の卒後35周年記念同窓会を今年8月22日(土)に開催する旨お知らせしておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、3月末に延期を決定しました。

新型コロナウイルス感染の状況をみながら、開催を検討していきます。どうぞ、その時まで楽しみにお待ちください。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りしています。

平成29年卒 第2回薬学バドミントン部同窓会

菅 忠明 (平27)

令和2年2月29日(土)、長崎市万屋町の「ながれ」にて平成29年卒(平成23年度入学)の薬学バドミントン部(以下、薬バド)の同窓会を行いました。前回は2018年の同時期に開催し、その際は大変に盛り上がりました(飲みすぎた人もいましたが笑)。私も含め3人が次年度より他県に引っ越すこともあり、今回も平木元部長の呼びかけで11人の同級生が集まりました。ちょうど新型コロナウイルスが東京や大阪で出始めた頃でしたが、ギリギリ開催することができました。参加した11人のうち8人が長崎に学生や社会人として残っていたものの、なかなか皆で集まる機会もなく、また県外からの同期との再会に大変懐かしい気持ちになりました。6年で卒業した同期たちは社会人3年目ということで、職場は様々ではありますが、仕事の話で盛り上がっているようでした。一

方で、私も含めて博士に進学した同級生は、修了や就活など節目の時期ということもあり、将来について色々話をしたのを覚えています。会は2次会まで続き、大盛況のうちに終わりました。私は現在、製薬企業に就職して静岡で働いており、毎日富士山を見ながら通勤しています。長崎で27年間過ごしてきた私にとっては、もはや異国の地のように感じますが、新しいことばかりで刺激的な毎日を送っています。一方で、近い距離に家族や友人が居ないというのは寂しさを感じることも多いです。最近飲み会もなかなか開催することはできませんが、このような状況になる前に皆で集まることができ非常に良かったと思います。コロナが治れば、今回参加できなかった関西方面のメンバーのところに集合して第3回の同窓会を開催できたらと思います。



令和2年2月29日 於 ながれ

長崎大学病院薬剤部に就職して

八田 大典 (平27)

私は今年の3月に博士後期課程を修了し、4月から長崎大学病院の薬剤部で薬剤師として働いています。新型コロナウイルスの影響で歓迎会等の行事が全てキャンセルになり、最初は職場に上手く馴染めるか不安でしたが、業務や研修の中で多くの先生方と接する機会があり、また、みなさん親切な先生ばかりで、その不安は自然に解消しました。

配属部署は調剤室となり、主に錠剤等の取り揃えや一包化および散剤、水剤、吸入剤、軟膏の調剤を行っています。一見単純な業務に思われるかもしれませんが、配属当初は慣れない仕事や覚えるべきことの多さに困惑しました。1日に1000枚近く発行される大量の処方箋を素早く正確に処理するには、薬剤や業務運用に関する知識だけでなく、瞬発力、状況察知力、判断力、集中力および、それらを常駐する体力が必要ですが、大学院時代の研究生活で一つのことをどこまでも深く掘り下げ一点集中の思考と洞察力を訓練してきた私にとって、手元の処方箋に集中しながらも、周囲の状況への観察眼を光らせる多点集中は容易なことではありませんでした。また、研究では、物事をじっくり吟味して判断していましたが、調剤室では、素早く適切に判断する瞬発力が必要でした。仕事を続ける中で、徐々にそれらのスキルが身についてきましたが、まだ十分とは言えないので、早く習得できるように努力していきたいと思っています。

長崎大学病院の薬剤部には、充実した新人の教育プログラムがあり、薬剤師に必要な高度な知識とスキルを学ぶことができますが、これは私が本薬剤部を志望した理由の一つでもありました。所属の調剤室に加え、注射薬の調剤・鑑査を行う注射薬室、麻薬の調剤・鑑査を行う麻薬管理室、抗がん剤等の調製を行う製剤室、入院患者さんへの服薬指導を行う薬剤管理指導室など、各部署の研修を通して、薬剤師の一連の業務を学んでいます。今後、知識と経験を積みながら、薬剤師としてのスキルアップを図っていききたいと思います。

また、薬剤師として働く一方で、大学院時代に在籍していたゲノム創薬学研究室で客員研究員として研究を続けさせてもらっています。5月に科研費の研究活動スタート支援に応募し、初めて自分の研究費を獲得することができました。研究に注げる時間は限られていますが、土日に実験したり、大学院生に研究指導したりして、少しずつ研究を進めています。

また、次年度以降は薬剤部で臨床研究にも取り組んでいきたいと思っています。まだ遠い目標ではありますが、将来的には、薬剤師としての業務を続ける中で得た臨床での気づきをもとに臨床研究を行い、それを基礎研究にまで発展させて論文を書きたいと思っています。臨床と基礎の両方に精通した薬剤師・研究者になるのが私の夢です。

近況報告

林田 颯志 (平28)

恒例の近況報告を今年度もさせていただきます。昨年度はありがたいことに昨年末から今年の2月頃にかけて多くの出張に行かせていただきました。「第29回日本医療薬学会年会」、「静脈経腸栄養管理指導者協議会(リーダーズ)」、「日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会」、岡山大学病院の見学など、ほぼ月1回くらいのペースで様々な経験をさせていただきました。「第29回日本医療薬学会年会」では認知症のテーマで発表をさせていただき、今年は日本病院薬剤師会の雑誌に論文を投稿する予定ですのでもしよければ見てください。

気づけば、病院薬剤師5年目となり、職員の3分の1くらいが後輩となりました。新人だった頃のフレッシュさが薄れ、他の医療職種に対する態度もいい意味で堂々としてきているのではないのかなと思っていますが、知識的にはやっぱり知らないことだらけだなと毎日思っ

ています。勉強すればするほど知らないことが多いなー、と思いますし、学会に参加したり、他病院を見学したりすると心を打ちのめされることが多いです。今回、最近心を打ちのめされた事例の中の1つを紹介します。

先ほど記述したように昨年末に岡山大学病院に見学に行かせていただきました。私は病院薬剤部の院内教育関連のWGリーダーをさせていただいていることもあり、薬学実習生や新人薬剤師の教育を中心に見学することが目的でしたが、予想をはるかに上回る教育の厚さに驚きました。どこの病院でも新人薬剤師のために基本的な薬剤師業務の指導や疾患に対する薬物治療に関する講義や検討会などはある程度行われていると思いますが、岡山大学病院薬剤部では病院では珍しく、e-ラーニングを使用し、新人薬剤師に確認テストや症例勉強会に使用する資料の事前予習など、自宅でのオンラインによる学習を

促していました。

実際の症例勉強会では、事前に予習しているため、疾患の基本的概要や検討症例は説明不要で、話し合いのテーマに関するディスカッションから開始するという形式で行っていました。メリットとしては、勉強してきた内容を話し合うことで頭にも入りますし、演者も業務で疲れて寝てしまう後輩をみることがないためストレスを感じずに済みます。デメリットとしては、疾患の基本的概要のスライドとは別に、使用する症例を事前に考えて作成しておかないといけない（実際の患者の情報をオンラインに載せることはできない）のでかなりの時間と労力がかかります。1回作成してしまうと楽にはなりますが。。他にも、2週間～1か月に1回程度、各新人薬剤師と各担当の先輩薬剤師が業務や人間関係での悩み、時にはプライベートな悩みなど話し合い、話し合った内容を記録し、時間をかけて精神的なケアを行っていました。デジタルな部分だけでなく、アナログな部分も大変参考にさせていただきました。

岡山大学病院薬剤部の宣伝ばかりで申し訳ありません

が、岡山大学病院の薬剤部ではDI室でAIを活用した検索エンジンを作成途中とのことでした。例えば「・・・の溶解液は？」といった具合に質問すると、「・・・です。」みたいな感じで答えてくれます。近いうちにいろんな病院で実用化されていくようで、文書に書いてある内容を答えるだけの薬剤師では存在が危ぶまれていくので頑張らないといけません。

他の投稿者が触れているでしょうし、新型コロナウイルスの話はあまりしたくありませんが、新型コロナの流行により、e-ラーニングやAIなど人間以外の媒体が少し前よりも活躍する世の中になっているのは間違いないと思います。そうした中で薬剤師業務や薬剤師教育もこれから大きく変わっていくのは間違いないでしょう。Society 5.0という概念がありますし、これから人材育成に積極的にかかわり、学びの方法を模索してチャレンジしていこうと思います。今年は格好つけて、少し真面目な文章にしてしまいました。来年はマラソンの話とか書きますね。済生会病院の中村先生、すいません(笑)。バスケットでお会いしましょう。

卒業アルバム

本多 湧大 (令2)

同窓会の皆様、いつもお世話になっております。昨年のアルバム制作委員長をさせていただきました本多湧大です。昨年、長崎大学薬学部同窓会からアルバム制作の援助をいただき、非常にきれいなアルバムを作ることができました。この場をお借りしてアルバム制作委員会一同より感謝申し上げます。アルバムを2冊、長薬同窓会事務局へ献上いたしましたので、機会がありましたら是非

ご覧くださいとさせていただき考えております。

昨年も薬学科（6年制）、薬科学科（4年制）の4年生全員で卒業アルバムの制作を行いました。研究室ごとに趣向を凝らした演出があり、研究室ごとの色が出ていて、ページをめくる手が止められません。天候不良や度重なるスケジュールの調整があり、アルバム制作は苦勞しましたが、先生方のご理解とご協力があり、完成させ



ることができました。ありがとうございました。

私たちが令和になって初めての卒業生ですので、令和に因んで、アルバムの表紙には「令」という一文字を添えさせていただきました。「令」には「めでたい」という意味があり、令和初めての卒業生である私たちにぴったりの言葉だと思い、このアルバム名に決定いたしました。

た。私たちがまだお会いしたことがない先輩方も楽しんでいただけるようなアルバムになっていると思いますので、繰り返しにはなりますがぜひ一度ご覧になっていただきたいです。

最後に、今後とも長薬同窓会員の皆様には様々な面でお世話になるとは思いますが、何卒よろしくお願い致します。

白衣贈呈式

馬淵恵理子（学1）

令和2年10月1日、文教スカイホールにて白衣贈呈式が執り行われました。長薬同窓会のご厚意により白衣を贈呈いただき、一年生を代表して深く感謝申し上げます。

今年は、新型コロナウイルスが流行し、入学式をはじめとする新入生の行事が例年通りに行われず、さらに前期は、ほとんどがオンライン授業という今までにない状況に直面しました。そのような中、久しぶりに薬学部一年生が一堂に会し、白衣贈呈式が行われたことで、気持ちを新たにすることができました。これからも、例年とは異なる状況が続くと思いますが、気を引き締めて勉学に励んでいきたいと思っています。

頂いた白衣の左袖には、月桂樹と柏の葉があしらわれております。月桂樹はローマ帝国で競技会の卓越した者に与えられたのが起源とされ、数々の競技会で冠として使用されています。私たち一年生も、日本の医薬界の中で

「卓越者」となれるよう頑張っていきたいと思っています。また、頂きました白衣は実習等で大いに活用し、素晴らしい長崎大学薬学部の先輩方に続く人材になれるよう日々学問や研究に精進して参ります。本当にありがとうございました。



薬学祭

坂井 俊文（学4）

木の葉が若さ溢れる緑から趣深い紅色に染まり始めた11月2日、3日にかけて、今年度の薬学祭が開催されました。しかしながら、今年は例年とは異なり、年始から世界中で拡大をみせる新型コロナウイルスの影響により、新一年生や薬学サークルによる多種多様な出店の見合わせや、全学サークルにも負けない盛り上がりを見せる軽音サークルによるライブの中止など、例年よりも規模縮小を余儀なくされました。新型コロナウイルス拡大防止のため、今年は、ソフトボール、バレーボール、フットサル、バスケットボールの4種目のスポーツ大会のみの開催となりました。長薬同窓会様からの援助で今まで使用していた各種目の備品の一部と新型コロナウイルス拡大防止のための消毒液を購入させていただきました。お陰様で学生一同、新型コロナウイルスの拡大防止を踏まえうえて、実力を存分に発揮することがで

き、例年以上の白熱した試合が繰り広げられました。本当にありがとうございました。試合の様子は写真でご想像ください。



ソフトボール



バレーボール



バスケットボール



フットサル

グビロが丘下の薬専防空壕跡慰霊碑周辺の清掃

稲嶺 達夫 (平18)

長崎に原子爆弾が投下されてから8月9日で75年を迎えます。平成11年にグビロが丘下の薬専防空壕跡地に慰霊碑が建立されて以降、長薬同窓会では毎年8月の第1日曜日に慰霊碑周辺の清掃を行っています。

今年は8月2日に清掃を行いました。例年であれば、薬学部野球部を中心とした学生・院生と市内の同窓会員との交流の場ともなるのですが、今年は新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑みて、一部役員と事務局の少数精鋭体制で清掃を行いました。



今年は特にソーシャルディスタンスを意識しながら、慰霊碑周辺の落ち葉やゴミを取り除きました。当日は暑

すぎることもなく、作業はとてもスムーズに進みました。清掃後、原爆の犠牲となった先輩方に焼香し、清掃活動を終わりました。この慰霊碑のある防空壕跡地(射的場跡地に採穴された)へはいつでも行くことができますので、長崎市にお住まいの方は機会があればお参り下さい。



作業終了後は、山口先生が新会長となられてから初めて役員が集まったこともあり、今後の活動について役員間で意見交換を行いました。今年の同窓会活動はコロナ禍の影響を受けてしまい、会員同士の交流の機会が減ってしまいましたが、この状況が早く改善し、また集まって交流できる日が待ち遠しいです。

長崎大学薬学部昭和町校舎跡記念碑清掃

会長 岸川 直哉 (平10)

2020年8月21日(金)に長崎大学附属小学校内の長崎大学薬学部昭和町校舎跡記念碑の清掃を行いました。

記念碑の拭掃除と周囲の草取り等を実施しましたが

8月中旬から続く猛暑の中であったため、短い時間ながらも汗だくになりました。今回の記念碑の清掃は岸川(平10)と松尾(平15)で担当致しました。



旧小野島校舎跡記念碑清掃

山口 正広 (昭56)

2020年11月3日(火・祝日)に、長薬同窓会の年間行事の一つである旧小野島校舎跡記念碑周辺の清掃を行いました。

この記念碑は、自昭和22年至昭和26年卒業生の長薬同窓会小野島会により、1988年(昭和63年)6月に建立されたもので、記念碑の表面には「長崎医科大学附属薬学専門部小野島校舎跡」と彫り込まれています。小野島校舎は、1947年(昭和22年)1月20日に佐賀市多布施町の仮校舎より移転してきてから、西浦上(昭和町)に移転する1951年(昭和26年)4月7日までの約4年間使用されています。そして、小野島校舎時代には、新学制発令に伴う新制大学への昇格に関連し、九州大学移管問題が起こった

時代でもあり、長崎大学薬学部の歴史において一つの分岐点となったドラマティックな時代でもあったようです。

今年の清掃は、長崎県央支部の何人かの先生方に参加いただき、実施しました。当日は、朝から晴れており、朝8時15分頃に現地に集合、周辺の草取りや落ち葉拾いの後、記念碑の洗浄、拭き上げを行い、30分ほどで清掃作業は終了しました。作業終了後は、参加者全員で記念撮影を行い、各々解散しました。

なお、今年の参加者は、西村昇支部長(昭50)、西村律子先生(昭51)、石居敏文先生(昭56)、山口綾子先生(昭60)、それに私の5人でした。来年もまた多くの皆様のご参加をよろしくお願いします。



研究室だより

細胞制御学研究室

准教授 谷村 進

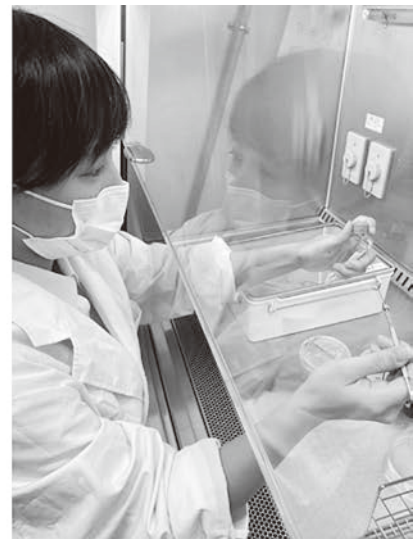
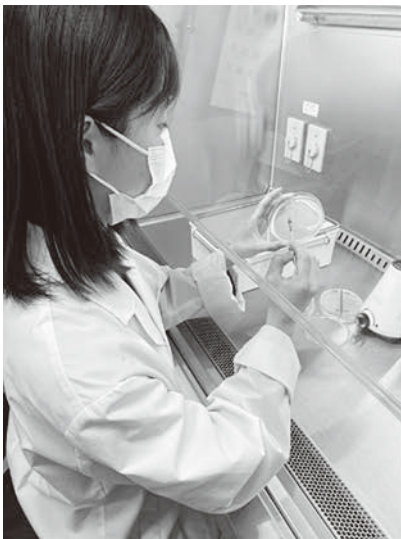
当研究室は、武田弘資教授と谷村進准教授（博平9入）の2名のスタッフが率いています。2020年3月に、博士後期課程1名、博士前期課程2名、薬学科3名が修了、卒業して、企業の研究開発、公務員、病院・薬局薬剤師として活躍しています。4月には、薬科学科の卒業生1名が博士前期課程に進学し、10月に3年生（薬学科1名、薬科学科3名）が新しく配属され、博士後期課程2名、博士前期課程3名、薬学科生6名、薬科学科生8名が所属しています。

研究室のテーマは、「ストレス応答を制御する細胞内シグナル伝達機構の研究」です。具体的には、ミトコンドリアのストレス受容・応答機構、炎症制御におけるミトコンドリアの機能、マクロファージ系細胞の炎症誘導性細胞死の機構、細胞運動の分子機構の4つの研究課題について、グループに分かれ、お互いに協力し合い、また刺激を受け合いながら、日々研究に打ち込んでいます。もうひとつのテーマは、「海洋微生物抽出物ライブラリーの構築と創薬への応用」です。ここでは、長崎県の豊富な海洋資源に着目して、県内各地より収集した海洋微生物の抽出物を創薬スクリーニングに利用できるよう

にライブラリー化を進めています。また、ライブラリーの拡充を進めると同時に、活性成分産生微生物の大量培養、抽出物の大量調製、活性成分の精製を進めながら、学内外のたくさんの研究者の方々にライブラリーを提供し、アカデミア創薬の基盤整備と長崎大学発の創薬を目指しています。

毎年研究室が開催している細胞制御セミナー（第22回）では、学習院大学理学部生命科学科の柳茂教授をお迎えして、「ミトコンドリアと疾患」についてご講演いただきました。コロナ禍の影響によりZoomでの開催となりましたが、活発な質疑応答が行われ非常に有意義なセミナーとなりました。

今年は、恒例の研究室旅行やバーベキューなどのイベントは残念ながら中止することとなってしまいました。自由な研究活動にも制限がかかるなか、物理的な「3密」を避けながら、一方でラボメンバー間の研究連携や情報交換は「密」を心がけ、これまで以上にワクワクするような研究成果を挙げるができるように、一同頑張っています。



創薬薬理学研究室

教授 金子 雅幸

長崎大学薬学部同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和2年10月1日付けで、植田弘師先生の後任として創薬薬理学を担当することになりました金子雅幸と申します。伝統ある長崎大学薬学部の教授として研究と教育に携わる機会を頂きましたことは大変光栄に存じます。

まず、私の自己紹介をさせていただきます。出身は埼玉県で、大学は北海道大学薬学部に進学しました。研究は薬理学分野の野村靖幸教授に師事し、博士課程に進学してすぐに助手に採用されました。その後、野村教授の退官に伴って、銚子市に新設された千葉科学大学薬学部講師として赴任し、北大から一緒だった大熊康修教授と薬理学教室を立ち上げました。その7年間では、研究だけでなく私学の手厚い教育システムを学びました。次に、岐阜薬科大学薬物治療学研究室において、神経内科学の医師である保住功教授の下で、脳の石灰化を伴う難病フール病とALSの研究に携わりました。多くの医師と一緒に臨床的な研究ができたのは大変貴重な経験でした。そして、私のライフワーク研究のきっかけを作った小胞体ストレス研究のパイオニアである今泉和則教授の招聘により、広島大学医学部分子細胞情報学に准教授として異動しました。広島大では医学生に生化学を教えながら、医師である大学院生や中国の留学生の学位取得を助きました。以上のように、異なるタイプの大学に所属し、薬理学以外の分野も学び、特性が違う学生の教育を担当した経験は大きな財産となりました。

研究は、これまで一貫してユビキチンリガーゼの研究を行ってきました。ユビキチンリガーゼは、基質となるタンパク質にユビキチンという小さなタンパク質を修飾することで、プロテアーゼ複合体であるプロテアソームによって分解に導きます。ユビキチン化とタンパク質分解はノーベル賞にもなった研究ですが、ユビキチン化はタンパク質分解だけでなく、タンパク質の輸送やDNAの修復など多くの細胞機能に関わることが最近分かってきました。しかし、そのユビキチン化において中心的役割を担うユビキチンリガーゼは600種以上存在していると予測されていますが、まだ解析されていないものが多く存在します。私はそのユビキチンリガーゼに焦点を当て、まだ解析されていないユビキチンリガーゼを同定し、その生理機能と疾患との関係性を明らかにしてきました。これまで、アルツハイマー病などの神経変性疾患を研究してきましたが、最近では腎臓における浸透圧調

節機構や炎症性腸疾患との関連性にも取り組んでいます。今後は、今年ノーベル化学賞でも注目されたゲノム編集技術を用いて、個体レベルでのユビキチンリガーゼの基質同定を目指していきます。そして、下村脩先生の取り組まれた蛍光タンパク質を用いて、細胞内のタンパク質の局在変化をハイスループット顕微鏡によりスクリーニングすることで、ユビキチンリガーゼに関連した創薬に挑戦していくつもりです。

さて、研究室の近況ですが、これまで准教授を担当されていた塚原完先生と協力しながら研究室を再構築しています。そして、広島大学から岡元拓海特任研究員と一緒に赴任し、私の研究立ち上げに尽力してくれています。学生は薬学科6年生が1名、5年生が3名、薬科学科4年生が5名で、新たに私と一緒に3年生が3名配属されました。いずれも男性で、女性が多い薬学部では異色の研究室となっています。研究室の規模は他の研究室にくらべると半分ほどですが、医学部から来た私にとっては、前任の研究室の数を大きく超える規模をいきなり任されることになり、責任の重さを実感しています。しかし、研究室の若い力はその不安を払拭してくれるぐらい頼もしい存在です。

私はそんなメンバーの夢を叶えるため、研究を通して社会人に必要な能力を養成し、様々なフィールドで活躍できる人材を送り出していきたいと考えています。そして、本学発の創薬を目指し、世界に向けて研究成果を発信していきたいと思います。最後に、私はこれまで多くの経験を通して学んだことを本学のために還元し、薬学部の発展に貢献していく所存ですので、今後ともご支援とご指導よろしくお願い申し上げます。



薬化学研究室

博士前期課程1年 本多 湧大

薬化学研究室は今年の3月には、准教授として研究室を牽引してくださった大庭誠先生が教授として京都府立医科大学へご栄転になられ、6月からは上田篤志先生が准教授に昇進になりました。さらに、3月には学業成績が優秀ということでM2の池田美鈴さんが学長賞を受賞されるなど、非常におめでたいことが続きました。しかし、新型コロナウイルスの大流行で卒業式や謝恩会が中止になり、3月から5月まで研究室は立ち入り禁止となり、大学の講義・演習・実験もZoomなどを利用したオンラインとなりました。また、研究成果を発表する学会も中止になったりWeb開催になったりしています。さらに寂しいことに、毎年行われている研究室対抗ボウリング大会、キス釣り、研究室旅行などの行事は新型コロナウイルスのため中止になりました。

6月になって外出制限が徐々に解除され、久しぶりに研究室の先輩、同期、後輩、そして先生方と顔を合わせると、皆元気そうで安心しました。10月の新配属では、フレッシュな3年生男子が6人も加わり研究室は大変活気あるものとなり、熱心に勉強や実験をしています。昨

年度から研究室には中国からの留学生の謝さんがおり、英語と日本語を交えながらコミュニケーションをとることも多くなっています。現在は、4年生、6年生、M2が卒業論文・修士論文作成に向けて忙しい日々を送っています。今年の学園祭はコロナ対策のもとスポーツ大会のみ実施され、体育館でのスポーツ大会の練習は良い息抜きとなりました。現在大学では、教員も参加する場合は20人までなら飲み会も実施可能という基準になっており、10月には3年生の歓迎会ということで、久しぶりに研究室の面々と顔を合わせてお酒を楽しむことができました。

新型コロナの規制も徐々に緩やかになっており、長崎市も観光客などが戻りつつあり活気が出つつあります。しかし、大学では県外のコロナ流行地や海外に行くことは禁じられており、GO TOトラベルを利用して関東や関西には行けない日々が続いており、早くコロナウイルスの脅威が去って欲しいものです。

では、来年も様々な良い報告ができるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。



薬品製造化学研究室

博士前期課程2年 堤 智寛

薬品製造化学研究室では、特異な生物活性や構造を有する天然物の合成を研究の柱としており、近年では、創薬を目指した合成物の活性評価を目的に、本学部の他研究室や他学部との共同研究も行っています。

今年度の薬品製造化学研究室は石原教授を含め教員3名、大学院生6名、学部生13名の総勢22名の大所帯となっています。

D1の川崎さんは、博士後期課程唯一の学生として自身の研究テーマに対して精力的に取り組んでおり、またリーダーとして研究室をまとめて頂いています。私はM2として博士前期課程も残りわずかとなり、修論発表会も控えているため、ターゲット分子の全合成達成に向けてより一層努力しています。博士前期課程に進学したM1の岸本君、久保田君、坂田君、佐藤君は各々のテーマに対して、今まで以上に気を引き締めて精力的に取り組んでいます。学部6年生の菊岡君は病院・薬局実習が始まり、非常に忙しい日々を送っています。学部4年生では、大橋君、岡野君、片柳君、古賀さん、二宮君が卒業研究に精を出しています。尚、土曜日セミナーや学部生・大学院生のゼミもそれぞれ継続しています。昨年からは学部3年生を対象としたゼミも始まり、有機化学の実力向上のために努力しています。また今年度10月から新し

く6名の学部3年生、大久保君、小出水さん、辻本君、錦織さん、森さん、山崎君が仮配属されました。慣れない研究室生活に戸惑うことも多いようですが、先輩から知識や技術を学ぼうと熱心に実験を続けています。

研究室行事としては、新3年生の歓迎会である「芋煮会」を始め、例年同様に研究室旅行や忘年会などを企画しておりましたが、昨今のコロナ禍により中止を余儀なくされました。研究室生活における良い気分転換の機会だったため、非常に残念な気持ちではありますが、このような状況の中でも、皆元気に実験を行っています。

本学では例年、御高名な先生方を講師の先生にお招きし、普段中々聞くことのできない非常に深いお話を拝聴しておりますが、今年度は開催が難しい状況です。また各学会に関してもオンラインでの開催が続いております。オンラインでの開催ではありますが、当研究室では今年度も天然物討論会で1件、複素環討論会で1件の口頭発表と、有機合成シンポジウムで1件のポスター発表と多くの学会で発表を行いました。中止でないことがせめてもの救いですが、やはり会場での臨場感といった学会の醍醐味を感じられないことは残念です。一日も早く元の生活に戻れることを願いつつ、新しい日々を送っています。



(※令和元年秋撮影)

医薬品合成化学研究室

博士前期課程1年 鳥越 康平

医薬品合成化学研究室では、教員3名、博士後期1年生2名、博士前期2年生4名、博士前期1年生4名、学部6年生1名、4年生4名、3年生3名の総勢21名で日々研究に取り組んでいます。グリーンケミストリーを支える電解反応と触媒反応の開拓、水酸基活性化に基づく生物機能分子構築、複素環化合物の高効率合成法の開発、含フッ素有機化合物の新規合成法を研究テーマとしています。

今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため、キャンパス内での研究活動の停止を余儀なくされました。その間、多くの学生が研究を進めることができませんでしたが、研究活動が制限付きながら許可されて以降、尾野村教授は研究室全体を、栗山准教授は第2研究室を中心に、山本助教は第1研究室を中心に、課題解決に向けて学生とディスカッションをこれまで以上にしています。

学生は、各々、研究テーマに対して強い思いを持って、最大限の努力をしています。一方で、休憩時間やプライベートでは3密を回避しながら、学生同士で雑談を交えながら楽しくご飯を食べています。10月に配属されたB3はこれまでとは異なる生活に戸惑いながらも、有機化学の知識や実験技術を学んでいます。先輩学生は、自身の実験とともに、B3の実験指導に追われて慌ただしい毎日を過ごしています。D1は研究室をまとめるリーダーとして、M2は修士論文完成を目指して、M1は学会発表や就職活動に向けて、B6とB4は卒業論文を完

成すべく奮闘しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、多くの学会が中止または延期となりました。しかし、このような状況においても、9月下旬に開催された第49回複素環化学討論会にはM1の1名が、10月下旬に開催された第117回有機合成シンポジウムにはM2の1名が、第30回記念万有福岡シンポジウムにはM1の1名がそれぞれオンラインにより参加し、研究成果を口頭発表することができました。また、11月上旬に開催予定の反応と合成の進歩2020特別企画シンポジウムにはD1の1名がオンラインにより参加する予定です。

例年、当研究室は元気のある学生が多く、イベントは毎回非常に盛り上がりませんが、今年度は様々なイベントの中止が続き、学生にはフラストレーションが溜まってしまいました。そのような状況の中、10月末に研究室対抗スポーツ大会が開催された際には、元気の良さで他の研究室を圧倒しました。また、10月下旬には、緩和された大学の学生行動指針を遵守して、B3の歓迎行事を開催することができました。

この様に当研究室はオンオフの切り替えを大切に、研究もイベントも全力で取り組み、充実した生活を送っています。今後もより良い研究成果を求め、論文や学会で発表できるよう努力して参ります。

末筆ではございますが、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



ゲノム創薬学研究室

博士前期課程 2年 永田健太郎

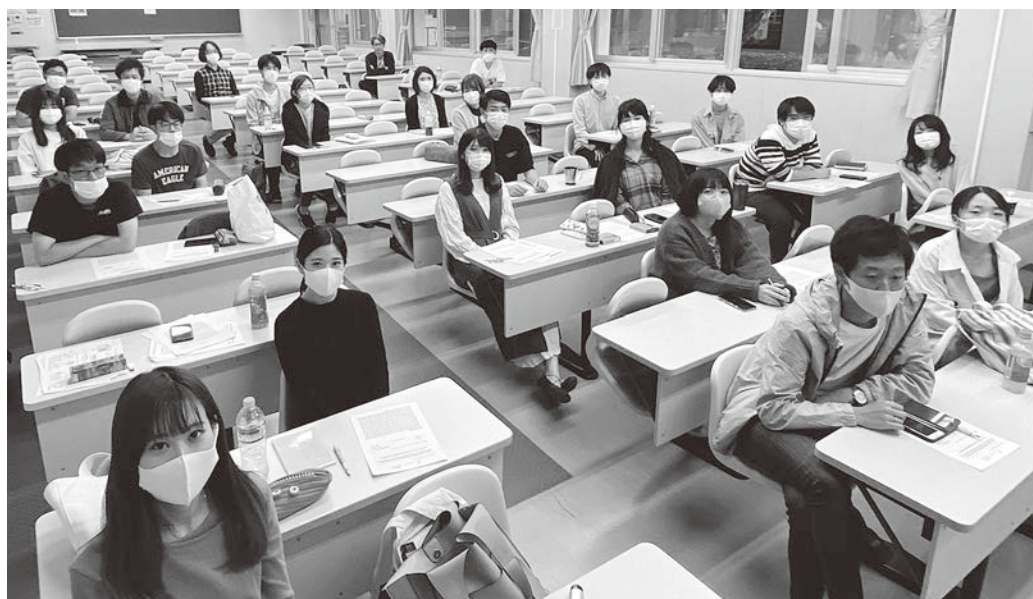
当研究室に配属されて、3年が経ちました。いつの間にか先輩方は全員卒業し、気が付いたら最高学年です。新しいメンバーが次々に入ってきて、今までに先輩方から受け継いだ伝統を後輩にうまく伝える重要な役割を担っていることを改めて感じています。というのも、スポーツ大会ガチ勢の集まりであることが伝統の一つであるため、毎年行われているスポーツ大会の練習を1週間前から毎日行い、その年のメンバーに合った戦略を考えディスカッションする日々が続いています。

コロナ禍で社会の活動スタイルも変化するなか、研究室生活も大きく変化し、密を避けるために対面でのディスカッションや朝礼が中止になりました。しかし、メールやWebでのコミュニケーションツールを用いてのディスカッションなど新しい方法を導入し、このような状況に柔軟に対応しています。実験以外の作業が在宅で行われるようになり、自立した行動が強く求められるようになりました。現況を社会人として必要な資質やスキル、計画性を身に付けることができるチャンスと捉えることとし、研究室メンバーがそれぞれ一日の振り返りの日誌を毎日作成し、明日の計画を立てることにしました。結果的に「多角的に、深く考える」、「能動的に目標を決めて学習する」時間が増えて効率的に物事を進められるようになりました。このように、充実した研究室生活を送っています。また、臨床実習や就職活動にも影響が及び、対面での患者応対や面接が行えない状況でした。そのため、コミュニケーションや現場の雰囲気をつかむといった経験を得るには不十分ではありましたが、みな無事に課題を終えることができました。また、この

ような難しい状況ではありますが10月からは当研究室に5名の3年生（薬学科：西村聖未、薬科学科：金本海斗、野田明希、眞喜屋志穂、山本大樹）が新たなメンバーとして加わり、学生が計23名とますますにぎやかになりました。

研究に関しては岩田修永教授、城谷圭朗准教授の指導の下、コロナ禍での新しい生活スタイルを取り入れながら日々研鑽に励んでおります。中間報告会や、メンバーが増えたことで必然的に回数も増えた文献紹介につきましても3月から5月の登校禁止期間のしわ寄せで短期間詰め詰めの集中であるものの精一杯取り組んでいます。研究業績に関しましても、2020年3月に開催された長崎大学薬学部分野横断型卒業研究ポスター発表会において、博士前期課程1年（受賞時、薬科学科4年）の光成晃輝が優秀ポスター賞を受賞しました。また、博士前期課程1年（受賞時、薬科学科4年）の藏根夏美が下村脩博士記念成績優秀者賞を、八田大典（敬称略、受賞時、博士後期課程3年）が学長賞を受賞しました。次回も良いご報告ができるようチーム一丸となって精進致します。城谷先生、最近ちょっと良いデータを取れた様子です。

このように、本年度の研究室生活は例年とは大きく異なるものでした。行動制限が多少緩和されてきておりますが、まだ研究室員全員でのイベントはできていない状況です。毎年恒例の子々川バーベキューや研究室旅行も、非常に残念ながら中止をせざるを得ませんでした。1日でも早く新型コロナウイルス感染症が収束し、また研究室員全員で楽しい時間を過ごせる日々を心待ちにしております。



天然物化学研究室

博士前期課程2年 川副 里菜
博士前期課程2年 末廣 彩
博士前期課程2年 山下 貴子

現在、天然物化学研究室は、田中 隆教授、齋藤義紀准教授、松尾洋介助教（平15）のご指導のもと、博士後期2年（1名）・博士前期2年（3名）博士前期1年（1名）・学部6年（2名）・学部5年（3名）・学部4年（5名）、そして今年10月に学部3年（6名）を新たに迎え、計21名で日々、研究に邁進しております。

これまで一緒に切磋琢磨して研究に取り組んできた学生が3月に卒業・修了を迎えましたが、新型コロナウイルス流行の影響で卒業式は中止となり、研究室での送別会もセミナー室での小規模なものとなってしまいました。寂しい思いを抱える中、一時は登校が制限されて研究室に来て実験することすらできず、毎年5月に開催している当研究室と薬用植物学研究室合同の植物観察会も中止になりました。研究室セミナーもオンラインで行わざるを得ず、6月には例年すべて対面にて行っていた基礎実習も一部オンラインへ変更して実施しました。ただ、この非日常の中でオンラインセミナーや限られた時間内での実習補助をすることになった私たちにとっては、後輩たちに知識や技術を伝える難しさや楽しさを感じると共に、新しい知識や技術を習得することができた良い機会になりました。その後さまざまな制限が次第に緩められ、10月からは、光栄なことに本研究室に興味を持ってくれた学部3年生が配属されて来て、フレッシュな風を研究室に運んで来てくれています。

研究室のホームページに掲載しておりますように、例年当研究室は学会に積極的に参加しております。残念な

がら今年は多くが中止や延期となりましたが、それでも誌上での開催ではあるものの、日本薬学会第140年会（3月）、第26回日本食品化学学会（8月）、第64回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（10月）等で多くの学生が研究結果を報告しております。3月には薬科学科4年生の分野横断型卒業研究ポスター発表会が開催され、8月には令和2年度（博士後期課程・博士課程薬学系）中間発表会がオンラインで行われました。11月には薬学科6年生の卒業論文発表会が開催されます。論文作成や学会発表では先生方からの厳しい指導のもと自分の言葉でわかりやすく伝える事の難しさを感じ、試行錯誤しながら各々が懸命に取り組んでいます。

（敬称略順不同）

2019年度3月修了・卒業生：若松 初実（博士課程）・清水 健吾（学士）・田中 純怜（学士）・宮城 知佳（学士）
2020年度在学生：胡 一鳴（博士後期2年）・川副 里菜（博士前期2年）・末廣 彩（博士前期2年）・山下 貴子（博士前期2年）・柴田 翔生（学部6年）・高橋 龍磨（学部6年）・山本 崇太郎（博士前期1年）・宮上 桐豪（学部5年）・河崎 友昭（学部5年）・坂本 健太（学部5年）・福田 智志（学部4年）・藻利 翔（学部4年）・安松 美保（学部4年）・高吉 樹里（学部4年）・橋口 啓吾（学部4年）・大久保 千帆（学部3年）・佐藤 早紀（学部3年）・壹岐 美里（学部3年）・角田 航（学部3年）・谷口 由依（学部3年）・Byamba Adiyasuren（学部3年）



機能性分子化学研究室

学部4年 安富由加梨

私が当研究室に仮配属されてから今年の10月で1年を迎えました。昨年10月より当研究室で起きた様々なことに触れながらこの1年間を振り返ります。

2019年10月1日、私を含む3年生6人が研究室に仮配属されました。オリエンテーション実験で様々な説明を受け、何もわからない状態から研究室での生活がスタートしました。当時は、3年生同士も接した事がない子ばかりでどこか距離感があったことを懐かしく思います。

11月18日には、薬学科6年生の酒井さん、肥田さん、富田さんの卒業論文発表が行われました。堂々とした御三方の発表は大変学ぶべきことが多く、3年後、私もあの様になれるものかと不安にもなりました。

12月8日には、薬学部歓迎迎会がサプライズで行われました。当研究室からは4年生の4人が薬品分析化学研究室の方と合同で、赤と緑の帽子にオーバーオールを着た某兄弟が主役のゲームをモチーフに寸劇を創作し、仮装とともに披露してくださいました。いつも研究室で見る先輩方とは異なる一面が垣間見え、面白かったです。特に大山さんのピー○姫のコスプレが良く似合っていて大人気でした。先輩方お忙しい中準備お疲れさまでした。

12月26日、朝から研究室の大掃除を行いました。置物と化した書籍等の処分や廃棄試薬の整理など、普段の掃除ではできない部分を綺麗にしました。夕方には、「だるまもん」にてみんなで仲良く忘年会を行いました。アルコールが入ることで普段よりもハイテンションな状態が出来上がり、話も弾みました。ここの焼き鳥屋さんの串は安くて美味しいのでぜひみなさんにも食べていただきたいです。ちなみに私は牛サガリがお気に入りです。

年が明け1月9日、東北大学多元物質科学研究所の和田健彦先生をお招きして、「細胞内環境応答型人工核酸システムの開発 -ヌクレアーゼ活性制御機能を有する癌細胞選択的核酸医薬創製を目指して-」と題したご講演を行っていただきました。核酸医薬品について物理化学的観点からわかりやすく、活気のあるご講演をしていただき、内容自体の知識だけでなく、大勢の人の前でプレゼンテーションをする際の話し方等とても勉強になりました。

3月2日、甲南大学の先端生命工学研究所の杉本直己先生による「分子クラウディング環境下での核酸化学」と題したご講演をしていただきました。非常にハイレベルな講演で勉強になることが多かったです。

3月23日には、薬科学科4年生および薬学科6年生の卒業式が新型コロナウイルス感染拡大防止で中止になったため、研究室内で感染等に気を付けながら簡易的な送別会を行いました。私たち後輩に優しく笑顔で接して下さる先輩方にはたくさんの癒しをいただいていたので、卒業されることがとても悲しかったです。また、6年生は全員薬剤師国家資格に無事合格されました。いつも夜遅くまで勉強に励んでいる姿を見ていたので、本当におめでとうございます。卒業後も元気に過ごされることをお祈りしています。

3月25日には、寺田さんが薬科学科卒業研究ポスター発表会において優秀ポスター賞を受賞され、大山さんは学部長賞、下村博士記念成績優秀賞を受賞されました。このような素晴らしい賞を当研究室で2人も受賞されたことは素敵なことですね。私たち4年生も先輩たちみたいになれるよう精進して参りたいと思います。

年度が変わり4月1日、それぞれ1学年上に進学し、



気持ちを新たにしましたが、新型コロナウイルスの影響で2週間の自宅待機を強いられ、授業もオンライン化するなど新たな生活様式に変化する毎が始まりました。前期の間は自宅待機の期間も多く、少しずつwithコロナの生活に変化していますが、慣れるにはまだまだ多くの時間を要することでしょう。

6月12日には、山吉教授、大山さんの研究成果がPharmaceutics誌に受理され、長崎大学ホームページの学術情報にも掲載されました。また、9月29日には、土井さんが第4回育薬研究教育センター若手シンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞、9月30日には、寺田さんが16th Annual Meeting of the Oligonucleotide Therapeutics Societyにおいて2020 Poster Award

を受賞されました。身近で頑張っている先輩方がこのような素晴らしい賞を受賞されている姿を見ていると、とても誇らしく、自分ももっと頑張らないと、と鼓舞されます。本当におめでとうございます。

10月7日、6人の3年生が当研究室に仮配属されました。先週からオリエンテーション実験が始まり、私たちが指導する側になって実験する上で注意すべき点などを再確認することも多く、刺激を受ける毎日です。少しでも多くのことを吸収しようとする姿勢は大変頼もしく、これから同じ研究室で実験に励む日々が楽しみです。

これからまた新しいメンバーで1年間充実した毎日を過ごしたいと思います。

衛生化学研究室

博士後期課程1年 野崎 伊織

衛生化学研究室は現在、淵上准教授、吉田助教(平19)、大学院生6名、学部生13名の計21名が所属しています。当研究室の最近の様子についてご報告したいと思います。

2020年3月25日の学位授与式では薬科学科4年生2名、薬学科6年生2名、博士前期課程2年生4名の計8名が長崎大学を卒業・修了し、就職または大学院に進学をしました。卒業・修了した同級生たちは、個性的なメンバーが揃っており、お菓子や家電についてなどの様々な謎の議論をしたこともありましたが、そんな何気なく交した会話や皆と過ごした毎日はとても楽しかったです。また、同時期頃にエジプトからの客員研究員であるRania El-Shaheny博士が研究を終了されました。私たちの拙い英語に対しても笑顔で対応してくださっていたのが印象的でした。突然のお別れとなってしまったので、とても寂しかったです。

研究室内でそのような変化を迎えていた頃、新型コロナウイルスの世界的な流行が起こり、その影響は我々の生活にも多大な影響を与えました。例年通りであれば、4月の大掃除・飲み会から始まり、新年度の研究活動がスタートしていくという流れになるのですが、今年度の春は、全国的に新型コロナウイルスが猛威を振るっており、密になることを避けなければならなかったため、例年通りのスタートを切れない状況になってしまいました。これから気持ちを新たにみんなで頑張っていこうというタイミングで、不要不急の外出は控えるなどの誰もが経験したことがない状況になってしまったので、私たちがこれからどうなっていくのだろうという不安を抱えたまま、新年度のスタートを迎えてしまいました。

不要不急の外出はできないとはいえ、完全にすべてをストップしてしまっただけでは今後のしわ寄せが大変なので、



外出の自粛期間は各自で論文の検索・まとめを行い、在宅でもできることをして自己学習を進めていきました。また、例年なら対面でのセミナーを行っているのですが、今年はコロナウイルスの影響で、対面でセミナーをすることが難しい状況となってしまいました。そのような状況下でも、先生方の柔軟な対応により、衛生化学研究室が始まってからおそらく初のZoomを利用したオンラインでのセミナーを行うことになり、最初はちゃんとできるのか不安もありましたが、特に大きな問題はなく、コロナ禍にもうまく対応できたのではないかと思います。

ただ、やはりコロナ禍ということで、研究室でのイベントはことごとく中止になってしまいました。いつもなら、

キス釣りやボーリング大会、研究室旅行や飲み会などのイベントがあり、研究室のメンバーと交流し、親睦を深めているのですが、今年はそのような機会がないので、とても残念です。今の状況が早く収まって、以前のような生活ができるようになってほしいと本当に思います。

後期になってからは少しずつ対面での授業も増えてきており、研究活動も感染症対策をしながら行っております。そんな中、2020年10月には3年生4人が当研究室に仮配属されました。新しいメンバーとともに皆で協力し合って研究を頑張っていきたいと思います。

末筆ではございますが、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬品分析化学研究室

博士後期課程1年 丹下愛佳理

現在、当研究室は黒田直敬教授、岸川直哉准教授（平10）のご指導の下、博士後期課程1年（2名）、博士前期課程2年（5名）、博士前期課程1年（4名）、学部4年生（5名）、そして今年10月に学部3年生（6名）が新しく加わり、計22名の学生が日々研究に取り組んでいます。また、10月からはJSPS 外国人特別研究員をされていたMahmoud Hamed Elmaghrabey 博士が助教に採用されました。学生は日々慣れない英語に苦労しながらもご指導いただき、勉強になる毎日です。

当研究室の最近の様子についてご報告したいと思います。2020年度3月には、1名の学部生、4名の博士前期課程学生、1名の博士後期課程学生が研究室を卒業・修了しました。博士後期課程の先輩には、研究室に配属さ

れてからの約3年半、様々なことを教えて頂きとても頼りになる存在でした。卒業・修了した同級生たちは、ともに切磋琢磨しあえる間柄でもあり、イベントや飲み会など皆と過ごした日々は楽しかった思い出です。しかしながら、今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり卒業式が中止となったため、しっかりと旅立ちを祝うことができなかつたことは大変心残りです。

4月からは新型コロナウイルス感染症の拡大により、前期の対面授業は中止となり、オンラインもしくはオンデマンド方式へと変更になりました。初めはZoomの授業に慣れないところもあり戸惑いしましたが、今では何処でも授業を受けられることは便利でいいものだと感じております。また、研究室活動についても5月の初めまで



自粛の一途を辿りました。この間、人と接する機会が少なかったため、久しぶりに研究室のメンバーと実際に会って話すことができたとき嬉しかったことを覚えています。

イベントに関しましては、毎年恒例の5月のキス釣り、ボーリング大会、8月の研究室旅行、ビアガーデンなど全てにおいて中止となり悲しい気持ちでいっぱいです。学会等に関しましては、例年7月に開催されている九州分析化学若手の会夏季セミナーや11月に開催される日本薬学会九州支部大会など、ほぼ中止となり発表・交流の機会を持ってないことも残念なことのひとつです。

10月からは少しずつ規制も緩和され、対面授業も再開されるなど日々の生活が戻り始めているように感じます。今年も薬品分析化学研究室がトップバッターとして、2年生の学生実習を担当致しました。例年とは異なり、三密を避けるため人数を減らしての実験や、実験

キットを使った自宅学習・オンデマンドでの動画視聴等新たな試みが追加となりました。初めての实習に挑む2年生に実験の基礎を一から指導することは何年目になっても若干の緊張感がありますが、2年生の「分かった!」という表情にやりがいを感じながら毎年頑張っています。例年とは異なる所がありながらも、今年も無事に8日間の全日程を終えることが出来て安堵しております。2年生に少しでも印象に残る実習になっていれば良いなと思っております。

最後になりましたが、日々の多忙の中、薬品分析化学研究室出身の卒業生の皆様に少しでも懐かしい気持ちを感じていただければ幸いです。卒業された先輩方や同級生とコロナ禍で更に会える機会も減ってしまい寂しいですが、落ち着いた時にでもまた会ってお話できたら嬉しいです。皆様のご健康と益々のご活躍を祈念して、終わりの言葉とさせていただきます。

薬物治療学研究室

学部4年 柿原 亜美

薬物治療学研究室は現在、塚元和弘教授、稲嶺達夫准教授(平18)のご指導のもと、学部生21名で研究を行っています。平成28年から本学の副学長及び理事としてご活躍されていた塚元教授が9月末で任期を終えられました。長い間大変お忙しく、なかなか研究室でお会いすることもできませんでしたが、最近はたびたび実験室や居室を訪れてくださっています。また、10月からは新たに学部3年生5名を迎え、とても賑やかになりました。

当研究室では、主に「遺伝子多型と疾患、薬効の相関関係の解明」「腸内細菌と生活習慣病」の二つのテーマを

軸として研究を行っています。本年度の研究でも、疾患に関連する多型や、細胞やマウスにおける疾患の挙動が明らかになりました。さらに、週2回論文紹介や実験の進捗報告を行うためのセミナーを開いており、先生方に意見をいただいたり、学生同士で意見を交換したりすることでお互いの知見を深めています。

また、例年は研究室旅行などのイベントも行っていますが、今年は新型コロナウイルスの影響でやむなく中止となりました。他にも薬学部全体で行われるボウリング大会や歓送迎会も中止となってしまったり、坂本キャン



11月16日 卒業論文発表会にて

パス自体が立ち入り禁止になって研究室に入れなかったりと、今年度のメンバーで過ごす時間が少なくなってしまったのがとても残念です。最近はややく条件付きで飲み会を行うことができるようになったので、3年生の歓迎会を行いました。5年生は実習中のため参加できませんでしたが、先生方を含む多くの研究室員が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中で仲を深めることができました。6年生は国試を控えていて忙しい状況ではありますが、残り少ない時間を楽しく過ごしていきたいと思っています。

今年は例年とは環境ががらりと変わってしまい、計画がうまく進まないことが多かったです。しかし、先生方や研究室員の協力によって何とか乗り越えることができました。これからも研究室一同協力し合って研究に励んでいきたいと思っています。最後になりましたが、長薬同窓会の皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げます。近況報告とさせていただきます。

追伸 この秋に伊地知さんが卒業しました。今後のご活躍をお祈りしています。T.I.

医薬品情報学研究室

博士課程2年 加藤 直也

医薬品情報学（旧医療情報解析学）分野は、川上茂教授（平7）が主宰されて8年目を新体制のもとで迎え、日々研究に励んでおります。昨年度まで准教授として力強く支えてくださった萩森政頼先生（平13）が、武庫川女子大学薬学部薬品分析学研究室教授としてご栄転され、そして本年6月より理化学研究所生命機能科学センターから向井英史先生が准教授として新たに就任されました。現在は、川上茂教授・向井英史准教授のご指導の下、8名の博士課程、3名の博士前期課程、19名の学部生が在籍しております。博士課程のうち2名は、笹川科学研究助成者および日本学術振興会・特別研究員（DC1）に採用されております。所属する学生の顔ぶれも大きく様変わりし、今年の春と秋を併せて、4名の博士課程学生、3名の博士前期課程学生、4名の学部生が卒業・修了されました。そして、今年の10月には、2名の博士課程学生、5名の3年生が新たに加わりました。

本研究室では、Drug Delivery System（DDS）を

基盤として、医薬品としての需要が高まっている遺伝子・核酸医薬や細胞製剤などの多様化・複雑化した次世代モダリティの問題点を克服・制御化し、新規技術を創りこむ「創薬研究」や医薬品の適正使用における問題を収集・評価・解析する「育薬研究」に取り組んでいます。具体的には、1）超音波照射を利用した外部刺激応答性DDSの開発、2）マイクロ流体デバイスを用いた高機能・高品質脂質ナノ粒子の製造体系の構築、3）組織内環境の多色深部イメージングによる空間分布制御型DDSの開発、4）ネオ・エクソソームの創製に関する研究、5）T細胞誘導型ワクチンの開発に関する研究、6）デザイン細胞医薬、デザイン細菌医薬の開発に関する研究、7）ジェネリック医薬品の注射剤の配合変化に関する研究をおこなっております。これらの研究が、医薬品へと昇華させる次世代モダリティの基盤技術になることを目指しております。また、本研究室は、企業や大学病院、他大学の先生との共同研究も積極的に行っており、



学生も実験に参加する機会をいただくこともあるので、幅広い研究に携われ、多くの実験スキルを習得することができます。

このように多くの学生・研究テーマを携えておりますが、研究室内では、学部生ひとりに対して大学院生がそれぞれ割り当てられ、実験計画・実験手技などの指導を行うメンター制度をとることで、円滑な情報共有・気軽に相談できる環境づくりを心がけております。また、今年はコロナ禍ということもありWebexを用いたオンライン形式で毎週、先生方が実験データや今後の実験に関して懇切丁寧にご指導して下さっております。このような恵まれた環境の中で、学部生・大学院生とも、頑張っ て実験に取り組むことができ、その研究成果を発表する場として学会発表を行う機会をたくさん頂いております。2019年度も、薬学会、薬剤学会、DDS学会、核酸医薬学会、遺伝子・デリバリー研究会、バイオマテリアル学会と様々な学会において発表を行いました。この中で2019年も学部生から博士課程学生まで全部で5件の賞を受賞しており、多くの先生から研究成果に関して発表者の学年を問わず高い評価をいただいております。

また現在、研究室内での論文紹介(セミナー)は、1報紹介はもちろん、発表から質疑応答まで全て英語でおこなうものや自分自身の研究に関連した周辺の論文について体系化して発表するものなど、学年に応じて各々の

研究レベルを高めるべく様々な形式をとっております。本番では先生や先輩から、多角的な質問や「ダメ出し」をたくさんされますが、その中で学ぶことは非常に多く、i) 類似研究との比較の中での自分の研究の位置づけ・独創性、ii) データの正確な解釈、iii) 論理的なプレゼン能力などを一回のセミナーで学ぶことができます。添付の写真はオンラインでのセミナー後に撮影したものです。

こうした研究活動の一方、研究室イベントも盛んに取り組んでいます。昨年は10月の新配属生歓迎会、学園祭でのスポーツ大会、薬剤学分野との合同忘年会、今年はコロナ禍に対応してオンラインでの他己紹介をテーマとした向井准教授歓迎会や3年生配属歓迎会などをとりおこない研究室の親睦を深めております。昨年の学園祭のソフトボール大会では3位に輝きました。

このように、医薬品情報学分野では、皆仲良く、何事にも熱心に取り組み、充実した研究生活を送っております。これもひとえに、先生方、卒業生の先輩方が築き上げてくださった環境のおかげでございませう。OB・OGの皆様方、お時間がございましたら是非とも研究室にお立ち寄りください。また研究室の様子や近況をホームページに随時更新しておりますのでご覧ください。最後になりましたが、長葉同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬剤学研究室

博士前期課程1年 加藤 陸

本年度の薬剤学研究室は、西田教授、麓准教授、宮元助教(平20)のもと、博士4名、修士3名、6年生5名、5年生5名、4年生5名に加えて、10月からは3年生6名が加わり、計31名で構成されています。3月には、にぎやかで後輩思いの素晴らしい先輩方が6名、9月に1名卒業され、非常に寂しい思いをしました。10月に加入した3年生もまたエネルギーで研究室を盛り上げてくれています。

当研究室は生物薬剤学を中心として、物理薬剤学および臨床薬剤学を強く意識した研究を展開しており、体内の特定臓器や病巣などの標的部位に、医薬品を選択的かつ持続的に送達する研究を行っています。そのためには、医薬品の体内における挙動を把握する必要があり、様々な角度から解析しています。研究班は大きく3つに分かれており、腹腔内の肝臓表面からの薬物吸収を利用した薬物ターゲティングを研究する「表面投与班」、遺伝子治療実現に向けた遺伝子デリバリーを研究する「遺伝子班」、病態時および各種治療時における薬物療法の個別化を研究する「動態班」があります。本年度は西田教

授・麓准教授が執筆したがんDDSに関する総論がChemical and Pharmaceutical Bulletin誌7月号の表紙を飾りました。また、宮元助教の研究成果がBiological and Pharmaceutical Bulletin誌に、修了生の研究成果が、Biological and Pharmaceutical Bulletin誌、Pharmaceutics誌、Biotechnology Reports誌に受理されました。さらに、卒業した松本さんが学長賞を受賞しました。また、昨年度より新設された下村脩博士記念成績優秀者賞を松本さん、長岡さん、加藤君(現在は修士)が受賞し、5年進級時成績優秀者賞を坂口さん、中原さん、前村さんが受賞しました。3月には、加藤君が薬学部卒業研究ポスター発表会優秀ポスター賞を受賞しました。

今年度はコロナ禍により講義も後期は徐々に対面が増えながらも前期はすべてオンラインで行われ、大学病院地区の当研究室は5月頃に立ち入りできなくなるなど研究や学業に大きな制限がかかるようになりました。県外への移動も制限され、就職活動を行った6年生は県外から戻った後2週間の自宅待機を余儀なくされたものの自

宅で統計解析や文献調査に励んでおりました。制限も徐々に緩和され、研究室員は春の遅れを取り戻そうと3密回避に十分に留意しながら日々研究に励んでおります。

文献紹介・研究報告・英語セミナーを行う毎週火曜日の全体セミナーはオンライン化しています。オンラインセミナーにも徐々に慣れ、学生による積極的な質問が飛び交っています。また、全体セミナーとは別に班セミナーもオンラインを巧みに活用して実施しており、少人数のより濃密なディスカッションの中で、学生は教員の研究姿勢、豊富な知識量に触れ、研究とは何たるかを学んでいます。

研究・学習面以外では、毎年お花見、子々川キス釣り、暑気払い・大学院試験激励会、研究室旅行、3年生歓迎会、卒論打ち上げ、忘年会、送別会など多くのイベントがあります。今年はコロナ禍でこれらのイベントはすべて中止となり、飲み会をオンラインで行うにとどめてい

ます。意外にも、クイズなど工夫することにより、オンライン飲み会でも十分楽しめることが分かってきました。また、同窓会誌掲載のための研究室員集合写真については、個別に撮影した写真を合成して作成しました。

卒業生の皆様、毎年お中元、お歳暮などたくさんの支援を頂き有難うございます。皆で分散分配して美味しくいただいております。直接会って話したいことがたくさんありますので、コロナ禍が収束し次第、長崎・研究室へぜひお立ち寄りください。当研究室のWebサイトはスマホ対応に完全にリニューアルいたしました(<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/ddds/>)。学術情報、研究室のニュースなどを随時更新していますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、コロナ禍の一刻も早い収束と長崎大学薬学部同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



実践薬学研究室

学部5年 相沢 里佳

学部5年 陣林 幸紀

「実践薬学」研究室の学部5年生の相沢・陣林です。新型コロナウイルスによる影響で大変な状況ではありますが、長薬卒業生の先輩方お元気でしょうか。当研究室は、平成17年8月に中嶋幹郎先生(昭57)が初代教授として着任されてから今年で16年目を迎えました。また平成27年4月に大山要先生(平12)が准教授として、平成30年4月に黒崎友亮先生(平17)が助教として着任され、3名の薬剤師実務経験のある先生方が学生指導に当たられています。学部教育では、いわゆる改訂コアカリの「(F)薬学臨床」の領域を担当されており、主として薬剤師実務実習に関連

する科目をご指導されています。今年はコロナ禍での薬局・病院実習となり、各種方面への対応や実習内容の見直しなど例年になく大変な状況のなか、学生教育のために尽力してくださいました。この場を借りて感謝を申し上げます。

さて、令和2(2020)年10月時点で研究室に配属されている学部生・大学院生は、博士課程大学院生2名(社会人1名を含む)と学部生17名の19名です。学部6年生は薬剤師国家試験受験のための準備と同時進行で、卒業論文の発表会の準備にも集中する毎日を過ごしています。これまでの模試の成績も大変良好で、今年も全員が

無事に合格すると思っています。また、先日行われた長崎大学薬学部育薬センター主催の第4回若手シンポジウムでは、学部6年生全員がそれぞれの研究成果を発表し、そのうち自己免疫疾患の抗原探索について発表された先輩が優秀発表賞を受賞しました。学部5年生は例年とは異なったスケジュールでしたが、全員が薬局の実務実習を無事に終えることができました。また病院の実務実習では、実地実習とオンライン実習を並行した新しい様式のもと現在も励んでいます。学部4年生は改築された新しい医歯薬学総合教育研究棟において、薬学共用試験(OSCE・CBT)に向け知識・実務ともに日々学んでいます。10月からは、例年とは異なった形での基礎実習を無事に終えた3年生が配属される予定です。3年生が少しでも早く研究室での活動に慣れるようサポートしていくつもりです。一方、博士課程4年生は日本学術振興会の特別研究員(DC2)として、疾患特異的な免疫複合体抗原の探索と新たな治療法の開発に関する研究に取り組んでいます。今年はリモートでのポスター発表を行い、この研究面での素晴らしい実績が評価され、来年のドイツへの研究留学に向けて最終調整を行っています。

また、最終学年ということもあり後輩への研究育成にも熱を入れて日々ご指導をさせていただきます。

今までに卒業された先輩方のように教養・知識・技能を備えた薬剤師として未来の社会を切り開いていける決断力のある社会人になるために、研究室の先生方のご指導のもと更に邁進してまいりたいと思います。



(コロナ禍のため今年の集合写真はなく去年の研究室対抗ポスター大会の様子です)

薬用植物学研究室

博士前期課程2年 池本 瑞季

現在、薬用植物学研究室は、山田耕史准教授のご指導の下、大学院生2名、学部生7名の計9名で日々研究に取り組んでいます。当研究室ではおもに植物や海洋生物、また海洋生物由来の菌からの成分の単離および構造解析、活性試験などの研究を行っています。

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、例年開催しているようなイベントをあまり行うことができませんでした。しかし影響が拡大する前の2019年末には、例年のように天然物化学研究室と合同で忘年会を行い、両研究室員の交流の場となりました。また、1月末には新年会として、中国から留学してきている博士前期課程1年の張さんが下さった中国の紹興酒「天之藍」を飲む会を開催しました。このお酒はかなりアルコール度数が高いため、研究室の中でも何人かしか飲めませんでした。私は飲めなかったのですが、飲んだ人によると、口から火が出そうな一方、フルーティーで爽やかな感じもあったらしく、美味しかったようです。2瓶いただいたのですが、まだ1瓶しか飲み終わっていないので、お酒に強い新入生が入ってきてくれることを期待しています。また、2月末には修了・卒業された博士前期課程の永江さん、薬学科の香田さんの送別会を行いました。実験や授業のことなど色々なことを教えて下さり、とても仲良くしていただいていたので、寂しい別れとなりました。

その後コロナウイルスの影響が拡大し、新学期オリエンテーションがなくなったり、講義がオンラインになったりと、私たちの学生生活にも様々な影響が見られる中、4月中旬に薬用植物学の基礎実習が行われました。直前までオンラインなのか対面なのか協議され、結局対面での実習となりました。とはいえ例年のようにわいわいにぎやかに実習、というわけにもいかず、実験のテーマを絞り、普段は全員で実習室にて行うところを、3班に分け、さらに時間差を設け、1班は植物園でのスケッチを行ってもらうことで、三密を避けるための工夫をしました。しかし実習中にも状況は変わり、5日間を予定していた対面での実習は、4日目までで終了することになり、5日目はオンラインとなってしまいました。

また、天然物化学研究室と合同で行っている文献紹介セミナーも4月から6月中旬までオンラインで行われ、いつもと違うzoomでの発表および聴講に戸惑いつつも各人の発表から様々なことを学ぶことができました。

大学はそのような状況になっている一方、学部6年生の早内君は各種就職活動がオンラインで行われ、また5年生の鳥越君は病院・薬局実習が一部オンラインで行われ、将来に向けての活動も例年通りにはいかず、なかなか難しいところもあったようでした。

そのような状況も徐々に緩和され始めた9月初旬、台

風10号の強風により植物園内のオリーブとビワの木が倒れるという被害がありました。また、それらの折れた木を切断するために使っていたのこぎりの刃が一日で使えなくなってしまうという事件も起こりました。

10月初めには3年生の高石君と薄田さんが入ってきて、人数の少ない私たちの研究室も少しにぎやかになりました。10月26日には、例年はお店でやっている新入生歓迎会を今年は研究室にお料理をテイクアウトしてきて

開催しました。そこで今まであまりしてこなかった3年生のプライベートな話も聞くことができ、交流が深められました。3年生は慣れない研究室生活で大変だと思いますが、実験をしていながら少しずつ慣れてもらえるといいなと思います。また、私たちも後輩指導とともに、自分の研究に一層力を入れ、卒論や修論、国試に向けて各々が精を出していく所存です。

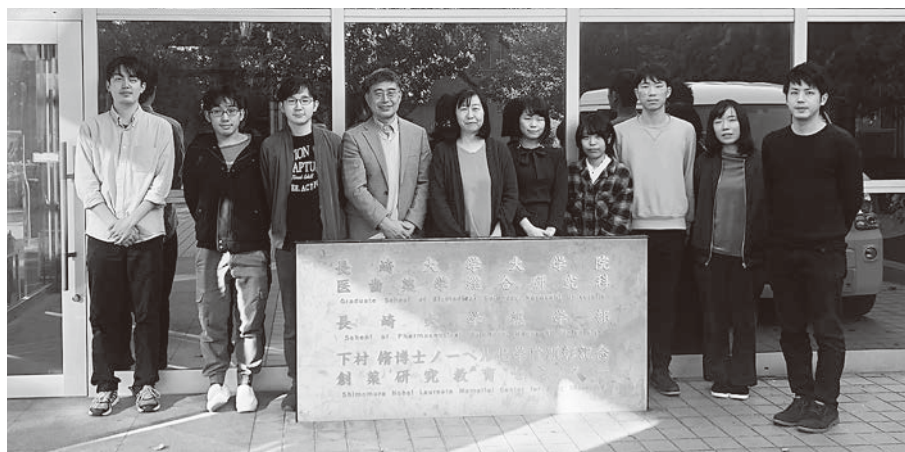


臨床研究薬学研究室

学部6年 永田将太郎

2020年10月現在、新型コロナの脅威はこの長崎県においては一旦落ち着いているかのように見えますが全国的には未だ予断を許さず、もうしばらく戦っていく覚悟が求められそうです。しかしながら良い出来事もあり、私たちの研究室はこの10月に3年生2名を迎え、総勢10名(教員2名、学生8名)とやや小規模ながらも少しずつ賑やかになってきました。6年生は国試や卒論発表、5年

生は実務実習や卒業研究、4年生は事前実習や共用試験など、日々の忙しさに圧倒されそうになりますが、もがきながら、あるいは周囲の人の力を借りながら乗り越えようとしています。6年生や5年生、また大学院生の多くにとっては学生生活も終わりが見えてきました。おそらく誰もがこれまでの学生生活の中で、嬉しかったこと、辛かったこと、失敗したことなどをいくつも経験し



てきており、こうした経験が卒業後の新たな環境・生活の中で役立つことがきっとあるでしょう。残り少ない学生生活を大切に過ごしながら、新たに始まる社会人生活に向けて準備を整えていきたいと思えます。

さて、本研究室では毎週一回行われるセミナー（論文抄読会または卒業研究進捗発表会）で担当の学生が皆の前に出て発表を行います。難しい論文を何度も繰り返し読み、分かりやすく実験データを示し、結果に対する考察を加えながら先生方からの厳しい質問や他の学生たちからの素朴な疑問に備えます。もちろん最初はなかなか上手くいきませんが、何度か経験していくうちに皆が少しずつ自分の発表内容を深く理解するように努め、説明の仕方やレジュメの作り方なども上手くなってきていることを実感します。また、本研究室が担当している学生実習や新歓などのイベントを通し、教員・学生同士が交流を図りチームワークを高めています。培地の作り方や細菌の増やし方、顕微鏡の使い方なども学生実習の準備を通して先輩から後輩に指導していきます。

本研究室の研究分野は感染免疫学です。都田先生（平9）のグループでは、マラリア原虫感染免疫への既存代

謝調節薬の影響を調べています。マウスから実際にリンパ球を取り出し精製・培養することや、顕微鏡やELISA、フローサイトメーターなどを利用することが多いのが特徴です。また、北里先生のグループでは、県内の乳酸菌関連食品企業との共同研究により、主にヒト免疫系培養細胞を用いて、乳酸菌のアレルギー抑制活性やマクロファージの分化の研究などを行っています。細胞の培養を行うこと、リアルタイムPCRを用いて遺伝子の発現を解析することが多いのが大きな特徴の一つです。

最後になりますが、今年度は新型コロナにより薬学部でも講義や実習、研究、就職活動などに少なからず影響が出てしまいました。学生実習でも一回の学生数を半数に減らして同じ実習を二回行うなどし、感染対策を行っています。学生たちは勿論ですが、教職員の方々も多大な苦勞をされたことと思います。しかし春頃に比べ現在は暗い雰囲気はあまりなく、徐々に対面講義やサークル活動なども再開出来るようになってきました。このまま十分な感染対策を続け、状況を見ながら少しずつ以前の生活を取り戻していければと願います。

治療薬剤学研究室

学部3年 福澤 大輝

治療薬剤学研究室は、長崎大学病院の薬剤部に併設されている臨床系の研究室で、大学の研究・講義棟ではなく、実際に臨床業務を行っている薬剤部のすぐ隣の部屋で研究を行っています。薬学部の他の研究室とは少し離れているものの、病院の薬剤部の先生方や病院関係者の方と接する機会が多く、学部生の頃から医療現場の雰囲気を感じられる唯一の研究室です。一方で、研究室が大

学病院の中にあるため、新型コロナウイルス感染が流行っていた今年度の春から夏にかけては学生の登校に制限がかかり、研究ができなかったため、今年度末に卒業される先輩たちは非常に大変だったと聞いています。今は長崎県の新型コロナウイルス感染は落ち着いており、一部制限はありますが、例年と同じような生活を送ることができています。



現在の治療薬理学研究室のメンバーは、佐々木均教授(昭53)、兒玉幸修准教授(平13)、博士課程の学生が1名、学部6年生、5年生、4年生がそれぞれ3名ずつ、3年生2名、研究補助員2名の、計16名です。他にも、里加代子先生(平17)などの大学病院薬剤部の先生や、治療薬理学研究室出身で今は実践薬学分野で助教をされている黒崎友亮先生(平17)が薬剤部業務や実習生の指導を行いながら、本研究室で研究もされています。

本研究室では、佐々木先生のご指導の下、核酸医薬品を臨床へ応用するための薬物デリバリーシステム(DDS)の開発研究を行っています。がんに対するDDS技術は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の2018年研究成果展開事業大学発新産業創出プログラム(START)事業(3年間)に採択され、ベンチャーキャピタルとともに実用化を目指しています。また、ワクチンに関するDDS技術は、日本医療研究開発機構(AMED)の令和2年度『新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するワクチン開発』に採択され、熱帯医学研究所と共同

でmRNAワクチンを設計しています。このように、病院内の小さな研究室ですが、最先端の研究が行われています。その中で、学生にもさまざまな手技・知識が必要なため、指導内容もin vivoやin vitroにおける実験技能の習得に力が入れています。現在、私たちも先輩方に指導して頂きながらこれらの実験技能を学んでいます。今後も卒業生の皆様のご期待に応えられるよう、研究活動に努めてまいりたいと思います。

今年度は、新たに学部3年生の西川遊太郎、福澤大輝の2名が10月から研究室に加わり、年度末には、学部6年生の神田明樹さん、中村浩基さん、真崎靖子さん、博士後期課程の濱田英里さんが卒業されます。また、佐々木均教授が今年度末でご退官される予定です。

写真にあるように2020年9月18日に佐々木先生の誕生日会が行われました。薬剤部の能勢先生(院平12)の企画で、佐々木先生の誕生日に卒業生や薬剤部の職員が集まって、サプライズを行いました。

薬品構造解析学研究室

准教授 真木 俊英

薬品構造解析学研究室は、2020年3月に薬学科の木村さんと鎌さんが卒業しました。もちろん、二人とも無事に国家試験に合格し、新天地へ旅立って行きました。ただ、コロナ禍の中、卒業式も無く、何とも寂しい年度末でした。また、武田科学振興財団フェローのクウェシ・トムフォード博士(ガーナ)は、2019年度末に帰国する予定であったものの、コロナ禍でフライト許可が下りず、約2週間ごとに予約してはキャンセルになるという状況を繰り返しました。帰国を待たされている間、宿泊費は武田科学振興財団に手当してもらえましたが、食費は自腹で、収入も無い。居住者では無いので行政からの支援が無く、学生では無いので大学からの支援も無いという困難な状況に陥りました。7月になり、ようやく帰国が叶いました。彼は、ガーナ国内に入った後も2週間の隔離が必要だったそうです。その様な状況下、5年生となった入江さんは、薬局・病院実習を順調に進めています。また、4年生へ進級した松永さん、早くも就職を決めた志船さんは、研究活動を再開しました。博士後期課程2年の周さんは、8月にオンラインで中間発表を行いました。

私は、出張が無くなりオンライン会議で部屋に閉じこもる時間が増えました。来客もなくなり、研究室はひっそりとしています。暑気払いも中止になりました。その様な訳で、お土産のお菓子も今年は全くありません。昨年からの目に付く変化は、研究室内のソーシャルディス

タンスを確保するために、学生のデスクを高さ150cmの仕切りで区切りました(写真参照)。あるいは、より勉強に集中し易い環境になったかもしれません。ただ、今年は、6年生が居ませんので、その効果検証は来年以降となります。

10月から3年生の米崎さんを迎えました。当研究室でも新しい日常を手探りで進んでいます。オンライン授業にオンライン会議、DXによる変化に期待しながらついでに行きましょう。



庶務報告

岸川 直哉（平10）

○定例理事会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大の影響を受けて、令和2年4月12日（日）に開催が予定されていた長薬同窓会定例理事会は中止となりました。令和元年度事業報告及び決算報告、監査報告、庶務報告、役員改選案、令和2年度事業計画案並びに予算案、次年度定期総会開催場所については書面会議にて討議されました。

○令和2年度長薬同窓会定期総会

今年度の長薬同窓会定期総会についても新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面開催とさせていただきます。結果につきましては下記のとおりです。

【令和2年度 長薬同窓会定期総会書面開催結果】

○議案

- 第1号議案 令和元年度事業報告並びに決算報告・監査報告の件 賛成825, 反対 0
- 第2号議案 令和元年度庶務報告の件 賛成824, 反対 1
- 第3号議案 長薬同窓会次期役員の件 賛成823, 反対 2
- 第4号議案 令和2年度事業計画案並びに予算案の件 賛成824, 反対 1
- 第5号議案 次年度定期総会の開催場所の件 賛成825, 反対 0

○すべての議案について、過半数の賛成をもって可決・承認されました。

○下村脩博士胸像除幕式延期

令和2年3月23日（月）に開催が予定されていた下村脩博士の胸像除幕式は新型コロナウイルス感染症の影響

により延期となっております。現段階では新しい日程等を決定するまでには至っておりません。感染状況を見ながら、開催時期や開催方法などについて長崎大学薬学部と調整を図ってまいります。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

令和2年8月2日（日）に、グビロが丘防空壕跡慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・事務局で行ないました。8月21日（金）には、昭和町校舎跡記念碑の清掃を同窓会本部役員の岸川庶務幹事（平10）、松尾会計幹事（平15）で行いました。また、11月3日（火）に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を山口正広会長（昭56）及び西村昇長崎県央支部長（昭50）他で行ないました。

○寄贈（寄附金）

令和元年8月から令和2年7月までの間に同窓生の皆様等から下記のとおり寄附金が寄せられ、希望者へ同窓会特製（校章入り）白衣が返礼品として贈られました。

特 鶴 大典様	100,000円
昭28 一ノ瀬正彦様	30,000円
昭36 宇田 照様	64,000円
平5 久松 桃子様	10,000円
薬学部軟式テニス部様	35,441円
下村博士記念胸像製作 /薬学部・同窓会交流関連事業	492,800円

○支部長交代等

山陰支部 新支部長に郡山信宏氏（昭60）令和2年10月支部より届けがありました。

宮崎支部日向浦陵会会長死去のため現在支部長不在となっております。

物 故 者 氏 名

前会報（59号）に発表の後亡くなった方、及び死亡が判明した方（敬称略）

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
金 戸 洋 特	昭18	令2.8.4	細川（園田）真理子	昭29	令2.7.8	磯 田 継 雄	昭39	令1.8.28
杉 岡 和 雄	昭23	平31.3.24	小 島 弘	昭30	令2.4.24	一 瀬 静	昭40	令2.5.-
笹 野 正 行	昭23	令2.7.8	峯 武 磨	昭30	令2.9.23	淀 川 広 海	昭48	平29.3.-
西 村 長 壽	昭23	令2.11.10	辻 良 三	昭31	平28.8.14	入 江 清	昭48	令2.1.3
久池井 正 人	昭24	令1.12.31	岡野（吉岡）幸子	昭31	平28.1.6	中 嶋 誠 一	昭49	令2.11.7
林 良 治	昭25	令1.9.11	榮 田 清 夫	昭32	令2.11.17	中嶋（松下）七重	昭50	令2.2.25
橋 口 勝 典	昭25	令1.5.20	近藤（中村）泰子	昭34	令2.1.12	富 田 浩 一	昭60	令1.7.14
相 川 直 敏	昭26	令2.1.31	桑 原 芳 郎	昭35	令2.4.20	中村（川崎）真理子	昭60	-
阿 部 道 夫	昭26	令2.7.-	田 川 眞 隆	昭35	令2.11.4	側島（一ノ瀬）佳重	平4	令1.7.10
立 石 正 文	昭26	令2.11.3	森 正 路	昭35	令2.5.7			
野 村 利 久	昭29	令2.1.20	浅 井 武	昭36	令2.10.21			
野見山 季 治	昭29	令2.2.28	松 林 重 宗	昭36	令2.10.26			
						計		33名

長薬同窓会への寄附金について（ご案内）

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、長薬同窓会への寄附金につきましては、2016年6月に開催いたしました平成28年度定期総会においてご承認いただき年間を通じて随時受け付けているところであり、頂戴いたしました寄附金につきましては長薬同窓会の事業等に活用させていただいています。

つきましては、下記の通り寄附金を受け付けておりますので、本会事業の充実・発展のため、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご賛同いただける方は、次ページの寄附金申込書・白衣希望確認書をE-mail、FAX、または郵送にて事務局までお送りくださいますようお願い申し上げます。

寄附対象者	長崎大学薬学部同窓生 長崎大学薬学部教職員 本会の趣旨に賛同する個人、法人、団体など
寄附金の単位	個人による寄附金については1口1万円を単位とします。 法人・団体等による寄附金については1口の金額は定めません。
寄附金納入方法	<u>郵便振替</u> 口座番号：01860-3-4125 口座名：長薬同窓会 <u>銀行振込</u> 十八親和銀行大橋支店 普通預金 口座番号：0517453 口座名：長薬同窓会 ※専用の振込用紙等の送付はございませんので、各自ご都合のよろしい方法で送金をお願いいたします。 恐れ入りますが振込手数料は各自ご負担願います。また、振込人名義には寄附者名と同じ名前でのご入力をお願いします。 <u>現金</u> 申込書を添えて現金書留でお送りいただくか、同窓会事務局へご持参ください。 ※申し訳ございませんが、長薬同窓会への寄附金の場合、税控除はありません。代りにお礼の品として校章入り白衣を贈呈いたします。
お礼の品	ご希望の方は1万円の寄附につき長崎大学薬学部の発端となった第五高等中学校の校章入り白衣を1着贈呈させていただきます。 サイズは男女別のS, M, L, LL, XL（3L）となっております。 <u>次ページ</u> の白衣希望確認書によりE-mail, FAX, または郵送でお知らせください。 毎年7月末までにご寄附いただいた方へ10月初旬ごろを目安に校章入り白衣を贈呈させていただきます。 贈呈数の例：10万円の寄附→0～10着まで選択可能

長薬同窓会 会長 山口 正広

問い合わせ先：長薬同窓会事務局

〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部柏葉会館内
TEL&FAX：095-844-6383 E-mail：jimukyoku@choyaku.jp

.....年 月 日

長 薬 同 窓 会 会 長 殿

寄附者 郵便番号

住 所

ふりがな

氏 名

(※法人にあつては、法人名及び代表者の職・氏名)

卒年 会員番号

(※同窓会会員の方で会員番号がわかる方はご記入下さい。)

電話番号

(※電話番号は必ず記入して下さい。)

寄 附 金 申 込 書

1. 寄附金額 円

2. 納入予定日 年 月 日

3. 納入方法 銀行振り込み 郵便振替 現金

(※いずれかに○をお願いします)

白 衣 希 望 確 認 書

1. 白衣の希望 あり なし

2. 白衣のサイズと枚数

男性用	枚数	女性用	枚数
S		S	
M		M	
L		L	
LL		LL	
XL		XL	

(※1口1万円につき1枚、最大10枚まで)

※この申込書は長薬同窓会のホームページからダウンロードできます。

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	准教授	萩森 政頼	フランス	2019/11/05～ 2019/12/11	科研費国際共同研究加速基金A（国際共同研究強化A）に関する研究
出張	教授	武田 弘資	台湾	2019/11/14～ 2019/11/17	2019 Taiwan-Japan Bilateral Conference on Phosphatasesに参加し、研究発表ならびに情報収集
出張	教授	田中 隆	中国	2019/12/17～ 2019/12/21	天然薬物に関するシンポジウム参加及び招待講演、広西植物研究所視察と学生との懇談および共同研究打ち合わせ
出張	助教	松尾 洋介	中国	2019/12/17～ 2019/12/21	天然薬物に関するシンポジウム参加及び招待講演、広西植物研究所視察と学生との懇談および共同研究打ち合わせ
出張	准教授	萩森 政頼	フランス	2019/12/21～ 2020/1/15	科研費国際共同研究加速基金A（国際共同研究強化A）に関する研究
出張	准教授	萩森 政頼	フランス	2020/2/2～ 2020/2/11	科研費国際共同研究加速基金A（国際共同研究強化A）に関する研究
出張	准教授	稲嶺 達夫	アメリカ	2020/2/10～ 2020/2/20	ニューメキシコ州のThe University of New Mexico（UNM）College of Pharmacyおよびその関連施設や医療機関において研修および教員と打ち合わせ
出張	教授	中嶋 幹郎	アメリカ	2020/2/10～ 2020/2/16	ニューメキシコ州のThe University of New Mexico（UNM）College of Pharmacyおよびその関連施設や医療機関において研修および教員と打ち合わせ
出張	准教授	萩森 政頼	フランス	2020/2/19～ 2020/3/16	科研費国際共同研究加速基金A（国際共同研究強化A）に関する研究

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏名	所属研究室	備 考
R 2.2.29	退職	准教授	大庭 誠	薬化学	京都府立医科大学 教授へ
R 2.3.31	退職	准教授	萩森 政頼	医薬品情報学	武庫川女子大学 教授へ
R 2.3.31	期間満了	助教	福田 瑞穂	薬品分析化学	鳥根県庁へ
R 2.3.31	期間満了	助教	西内 弥生	育薬研究教育センター	長崎大学病院 臨床研究センターへ
R 2.6.1	昇任	准教授	上田 篤志	薬化学	薬化学分野 助教より
R 2.6.1	採用	准教授	向井 英史	医薬品情報学	理化学研究所 生命機能科学研究センターより
R 2.10.1	採用	教授	金子 雅幸	創薬薬理学	広島大学 准教授より
R 2.10.1	採用	助教	Mahmoud Hamed Mahmoud Hamed Elmaghrabey	薬品分析化学	
R 2.11.1	採用	教授	鳥羽 陽	衛生化学	金沢大学 准教授より

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日
博甲第1189号	博士(薬科学)	オレジョラ ジョアンナ ツァスティムバステ Orejola Joanna Justimbaste	令和1年9月20日	博甲第1244号	博士(薬科学)	ウメノ トモヒロ 梅野 智大	令和2年3月19日
博甲第1231号	博士(薬学)	オオヤマ ナ ツ コ 大山奈津子	令和2年3月19日	博甲第1245号	博士(薬科学)	ハッタ ダイスケ 八田 大典	令和2年3月19日
博甲第1232号	博士(薬学)	タニグチ ヨウタ 谷口 陽太	令和2年3月19日	博甲第1246号	博士(薬科学)	キノシタ エリコ 木下 瑛莉子	令和2年3月19日
博甲第1233号	博士(薬学)	ニシムラ コウヨウ 西村 光洋	令和2年3月19日	博甲第1247号	博士(薬科学)	タニグチ マリコ 谷口 麻里子	令和2年3月19日
博甲第1234号	博士(薬学)	トクナガ アヤコ 徳永 彩子	令和2年3月19日	博甲第1248号	博士(薬科学)	スガ タダハル 菅 忠明	令和2年3月19日
博甲第1235号	博士(薬学)	ワカマツ ハツミ 若松 初実	令和2年3月19日	博甲第1249号	博士(薬科学)	フクダ ミズホ 福田 瑞穂	令和2年3月19日
博甲第1243号	博士(薬科学)	ホンダ シノ 本田 詩乃	令和2年3月19日				

長 薬 同 窓 会 役 員

(令和2年6月)

本部役員

会 長	山口 正広	昭56年	翔薬長崎支店	幹 事	本多 雅幸	昭62年	長崎県福祉保健部薬務行政室長
副 会 長	七種 均	昭56年	松谷薬局	〃	梶島 力	平4年	長崎国際大教授
〃	中嶋 幹郎	昭57年	長大薬学部教授	〃	山口 拓	平8年	長崎国際大教授
〃	中村 忠博	昭59年	長大病院副薬剤部長	〃	都田 真奈	平9年	長大薬学部教授
〃	藤島さとみ	平3年	つばさ薬局	〃	藤田和歌子	平11年	長大医学部准教授
〃	川上 茂	平7年	長大薬学部教授	〃	児玉 幸修	平13年	長大病院准教授・副薬剤部長
〃	澤勢 瑞城	平15年	さわせ薬局	〃	福地 弘充	院平14年	鍵屋薬局
監 査	高良 真也	昭57年	みどり調剤薬局	〃	手嶋 無限	院平15年	アイビー薬局
庶務幹事	岸川 直哉	平10年	長大薬学部准教授	〃	廣石 朝美	平28年	長崎県福祉保健部薬務行政室
会計幹事	松尾 洋介	平15年	長大薬学部助教	顧 問	山中 國暉	昭43年	あおかた調剤薬局
編集幹事	鶴丸 雅子	平5年	長大病院薬剤部	〃	佐々木 均	昭53年	長大病院教授・薬剤部長
〃	稲嶺 達夫	平18年	長大薬学部准教授				
〃	宮元 敬天	平20年	長大薬学部助教				

学年理事

学部

昭23年	中原 潜	昭47年薬	上田 孝子	昭59年薬	金子 富美	平8年	草野 リエ	平20年	向江 桂
昭24年		〃 製	松本 逸郎	〃 製	中村 忠博	〃	山口 拓	〃	筒井 翔一
昭25年	塚崎 邦彦	昭48年薬	竹嶋 直樹	昭60年薬	塩田 英雄	平9年	平良 文亨	平21年	森田 拓也
昭26年	峰 唯信	〃 製	井手 清	〃 製	山口 綾子	〃	八木 洋一	〃	原 陽介
昭28年	寺田 洋子	昭49年薬	金崎 勝代	昭61年薬	本多 隆	平10年	稲本 真吾	平22年	測上 由貴
昭29年		〃 製	馬場 満輝	〃 製	谷口 智子	〃	八幡 弘樹	平23年	中本 義人
昭30年	帆士 辰雄	昭50年薬	橋間真理子	昭62年薬	森川 隆	平11年	今村 朋史	平24年学	大塚 早紀
昭31年	中尾 保敏	〃 製	松田 米人	〃 製	池田能利子	〃	水野 和美	〃 科	只熊 郁也
昭32年	長田 雅子	昭51年薬	中村 珠江	昭63年薬	小田 賢一	平12年	大山 要	平25年学	黄 智剛
昭33年	西脇金一郎	〃 製	原田 均	〃 製	神山 朝光	〃	松永 隼人	〃 科	原口 綾奈
昭34年	松尾 幸子	昭52年薬	長井千恵美	平1年薬	嶋田 美樹	平13年	池口 敏春	平26年学	渡邊ありさ
昭35年	木下 敏夫	〃 製	北村 良二	〃 製	白川奈奈子	〃	佐道 紳一	〃 科	池田 夏海
昭36年	武田 成子	昭53年薬	森田 桂子	平2年	小山 季之	平14年	河内 亮	平27年学	濱崎 久司
昭37年	青木 昇	〃 製	佐々木 均	〃	山本 稔	〃	小西 宏規	〃 科	八田 大典
昭38年	岡 邦彦	昭54年薬	七條 利幸	平3年	中村 達也	平15年	木寺 健司	平28年学	林田 颯志
昭39年	鈴木 隆治	〃 製	濱田 哲也	〃	竹中 清美	〃	原田 周平	〃 科	松本 啓秀
昭40年	松村 祐子	昭55年薬	重松 敏彦	平4年	梶島 力	平16年	大神 正次	平29年学	川淵 有佳
昭41年	伊豫屋偉夫	〃 製	大田 佳史	〃	藤田 靖之	〃	牟田 響	〃 科	加藤 直也
昭42年	井上 一顕	昭56年薬	立花 寿子	平5年	木村 清	平17年	黒崎 友亮	平30年学	廣石 収
昭43年	山中 國暉	〃 製	都知木 陸	〃	森本 仁	〃	竹尾 公秀	〃 科	杉本 友里
昭44年	中村 和子	昭57年薬	堀田千加子	平6年	岩永 真理	平18年	稲嶺 達夫	平31年学	赤城 友章
昭45年	中村 博	〃 製	中西美由紀	〃	金村 隆則	〃	藤井 修平	〃 科	棚原 悠介
昭46年薬	大西 裕子	昭58年薬	宮崎 幹雄	平7年	土井 健志	平19年	細井 雄仁	令2年学	草野 泰輝
〃 製	田中 秀二	〃 製	松本 秀樹	〃	原田 祐樹	〃	向江 俊彦	〃 科	長坂 東奈

大学院

昭和42年～昭和46年	藤井 幹久 (院昭44年)	平成9年～平成13年	川上 茂 (院平9年)
昭和47年～昭和51年	高橋 正克 (院昭49年)	平成14年～平成18年	福地 弘充 (院平14年)
昭和52年～昭和56年	大木 豊 (院昭54年)	平成19年～平成23年	岩村 直矢 (院平23年)
昭和57年～昭和61年	高良 真也 (院昭59年)	平成24年～平成28年	村山 彩香 (院平24年)
昭和62年～平成3年	本多 雅幸 (院平1年)	平成29年～令和2年	小川 昂輝 (院平29年)
平成4年～平成8年	富田 守 (院平4年)		

長薬同窓会支部一覧

(令和2年10月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	澤 勢 瑞 城 (平 15)
長 崎 県 北 支 部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	織 田 堅 一 郎 (平 6)
長 崎 県 央 支 部	支部長	西 村 昇 (昭 50)
佐 賀 支 部 若 楠 会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部 浦 陵 会	会 長	池 田 光 政 (昭 57)
北 九 州 支 部	支部長	増 田 和 久 (昭 50)
大 分 支 部	支部長	石 橋 眞 (昭 49)
宮 崎 支 部 日 向 浦 陵 会	会 長	
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜 一 郎 (院昭55)
山 口 支 部 抜 天 会	会 長	今 村 明 久 (昭 49)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三 千 代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	郡 山 信 宏 (昭 61)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	末 澤 克 己 (昭 47)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	原 正 朝 (昭 60)
沖 縄 支 部	支部長	
北 海 道 支 部	支部長	

令和元年度長薬同窓会決算報告・監査報告

令和2年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	3,811,997	通 信 費	1,219,768
会 費 (延2058名)	6,175,000	総会案内・会報送送料	619,854
入 会 金 等	1,424,000	振替加入者負担金	244,055
下村博士記念胸像製作／薬学部・ 同窓会交流関連事業寄付金	492,800	事務連絡郵便料	319,903
預 金 利 息	38	電 報 電 話 料	35,956
寄 付 金	225,441	印 刷 費	1,986,802
雑 収 入	12,464	名簿, 会報他印刷費	1,986,802
名 簿 広 告 代	1,210,000	会 合 費	52,370
		理事会その他会合費	52,370
		旅 費	692,300
		役員その他出張費	692,300
		補 助 費	1,064,000
		総会および支部会補助金	560,000
		そ の 他 補 助 金	504,000
		維 持 管 理 費	99,230
		原 爆 慰 霊 碑	94,230
		小 野 島 記 念 碑	5,000
		事 務 費	207,403
		事 務 用 品 費	13,868
		電 算 機 費 用	193,535
		人 件 費	2,881,243
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	38,400
		臨 時 雇 員 手 当	1,812,843
		雑 費	309,206
		会 員 見 舞 弔 慰 金	61,200
		そ の 他	248,006
		同窓会名簿発行準備金	2,000,000
		次 年 度 繰 越 金	2,839,418
合 計	13,351,740	合 計	13,351,740

会計幹事、松尾洋介氏立会のもと、令和元年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、上記の通り相違ありません。

令和2年4月21日

監 査

高良真也 

令和2年度長薬同窓会普通会計予算

令和2年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	2,839,418	通 信 費	1,510,000
会 費 (延2000名)	6,000,000	総会案内・会報送料	770,000
入会金等 (薬学44名+薬科学42名)	1,640,000	振替加入者負担金	290,000
預 金 利 息	50	事務連絡郵便料	400,000
雑 収 入	50,000	電 報 電 話 料	50,000
		印 刷 費	1,400,000
		会 報 他 印 刷 費	1,400,000
		会 合 費	20,000
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	20,000
		旅 費	300,000
		役 員 そ の 他 出 張 費	300,000
		補 助 費	730,000
		総会及び支部会補助金	200,000
		そ の 他 補 助 金	530,000
		維 持 管 理 費	105,000
		原 爆 慰 霊 碑	100,000
		小 野 島 記 念 碑	5,000
		事 務 費	130,000
		事 務 用 品 費	30,000
		電 算 機 費 用	100,000
		人 件 費	2,869,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	39,000
		臨 時 雇 員 手 当	1,800,000
		雑 費	350,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	50,000
		そ の 他	300,000
		同 窓 会 名 簿 発 行 積 立 金	500,000
		予 備 費	2,615,468
合 計	10,529,468	合 計	10,529,468

令和2年度長薬同窓会特別会計予算 (同窓会名簿発行準備金)

令和2年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	2,000,000	積立金合計 (次年度へ繰越)	2,500,020
繰 入 金	500,000		
預 金 利 息	20		
合 計	2,500,020	合 計	2,500,020

編集後記

今年にはコロナウイルスに翻弄された一年でした。同窓会の活動も様々な影響を受け、支部会や同期会の多くも中止となったようです。そのような中、皆様のご協力のおかげで、今年も無事に会報を発行することができました。ご寄稿頂いた皆様に心より御礼申し上げます。紙面上ではありますが、交流の場として会報を愉しんでいただけだと思います。

今年はいずれの分野で、業務や会議のオンライン化やその見直しが行われたのではないのでしょうか。薬学部でも会議、学会、授業の一部がオンラインで実施されました。初めは戸惑ったものの、慣れるとオンラインの便利さも享受することができました。また、学生にとっては、就職活動での地方大学の不利が減るなどのメリットもあったようです。ウイルスに振り回されながらも、コロナ禍を機に社会がより便利により強くなればとも感じた年でした。

最後に、臨床の場で大変なご苦勞をされている方も多いかと思ひます。くれぐれもお身体ご自愛ください。皆様の一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

稲嶺 達夫 記

令和2年12月20日印刷

令和2年12月25日発行

長薬同窓会報

編集 鶴丸雅子、稲嶺達夫、宮元敬天

発行 長薬同窓会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL 095-844-6383 (直通)

095-819-2471 (ダイヤルイン)

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号870-0913)

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-58-3002



長崎大学薬学部 長薬同窓会